20環境学委員会

環境学委員会	FE・WCRP合同分科会
	- 環境科学分科会
	- 環境リスク分科会
	- 環境思想・環境教育分科会
	- 環境政策・環境計画分科会
	- 都市と自然と環境分科会
	自然環境保全再生分科会

環境学委員会・	環境学委員会·地球惑星科学委員会合同 FE·WCRP 合同分科会						
委員長	中村 尚	副委員長	三枝 信子	幹事	張勁		
主な活動	審議内容						
	社会のステー	ウホルダー	を強く意識しつつ地	球環境や気	候変動に関する超学		
	際研究を国際	的に推進す	る Future Earth (F	'E)、並びに-	そのパートナー的位		
	置づけとなっ	た世界気候	研究計画 (WCRP)	に関わる国	際的・国内的活動、		
	及びこれらの	活動に関す	る普及や関連する社	:会貢献を推済	進するための諸事項		
	の審議をおこ	なう。なお	、24 期発足に当たり	、⊫ IGBP	コアプロジェクトや		
	旧 DIVERSI	TAS が 201	5 年末に FE コアプ	゜ロジェクト	に移行したのを反映		
	させ、分科会	の名称を変	更した。また、対応	して FE 関	係の小委員会も改組		
	された。						
	意思の表出(※見込み含	む)				
	本分科会とし	ての表出は	ない。但し、令和元	年8月に開作	催した公開シンポジ		
	ウムの内容に	基づいた会	長談話「地球温暖化	」への取り着	組みに関する緊急メ		
	ッセージ」が	9月19日1	こ和文・英文で発出さ	された。			
	開催シンポジ	開催シンポジウム等					
	公開シンポジ	ウム「Futı	ure Earth 時代にお	ける地球表別	層システム科学と防		
	災・減災研究	〕を、フュ	ーチャー・アースの	推進と連携は	に関する委員会と合		
	同で、令和元	年8月7日	に学術会議講堂にて	開催した。ま	ミた、令和元年 12 月		
	19 日に東京で	で開催された	たFE サミットにも貢	献した。			
開催状況	平成 29 年 12	月 27 日、	*平成30年2月、平	成 30 年 12	月 27 日、*令和元年		
	6月、*令和テ	元年8月、台	う和元年 12 月 26 日に	こ開催(*は.	メール審議)。		
今後の課題等	分科会傘下の	小委員会が	平成 30 年 9 月末カ	ら 10 月初	旬にかけて IGAC・		

iCACGP 合同総会(高松)と SPARC 総会(京都)の開催を成功させた。WCRP の貢献が評価され、加入国際団体として拠出金が継続される見通しであるが、WCRP の次期 10 年の新戦略を踏まえて FE との連携の一層の強化などが必要。また、FE のみならず、国連の「持続可能な発展目標(SDGs)」との連携強化も必要。なお、新型コロナウィルス感染の世界的蔓延により国際連携活動に支障が出ており、こうした状況が続けば今後の国際連携活動に重大な影響をもたらしかねない。

環境学委員会	環境科学分科						
委員長	大政 謙次	副委員長	阿尻、雅文	幹事	青野 光子		
) COC BIND		1 100 1000		北川 尚美		
主な活動	審議内容						
	環境科学分野	の研究者の	連携推進、及び当該	分野の深化	・発展を目的とし、		
	そのために必	要な調査な	らびに情報発信につ	いて審議を征	行った。今期は、6		
	つのワーキン	ググループ	を設置し、シンポジ	ウムや書籍の	の上梓についての実		
	務作業を行っ	た。					
	意思の表出((※見込み含	t)				
	開催シンポジウム等						
	分野(民間)の	の取り組み」	(農学委員会農業生産	全環境工学 分	科会との共同主催		
	を北海道大学	農学部4階	大講堂にて開催。学	術会議叢書	「持続可能な社会へ		
	の道一環境科	·学から目指	すゴール」を企画し	、原稿とりる	まとめ中。		
開催状況	令和2年1月	22 日 (水)	(24 期第 6 回)、令和	12年3月13	日(金)(第7回)、		
	令和2年8月	20日 (木) -	予定(第8回、オンラ	イン開催)			
 今後の課題等	covid-19 によ	 、り令和 2 年	9 月の屋久島における	 るシンポジウ			
, 24 - 11142 4	た。24期中に	,		- ' '	,,==. , = ,,,1		

健康・生活科学委員会・環境学委員会合同 環境リスク分科会						
委員長	那須民江	副委員長	中村桂子	幹事	野原恵子・近藤昭	
	加須氏仏		十十7年		彦	
主な活動	審議内容	審議内容				
	1. 提言を作品	1. 提言を作成し、発出した(4月7日)				
	2. 学術の動	2. 学術の動向 2019年 10月号特集1を「Overcoming Environmental Risks				
	to Achie	ve Sustaiı	nable Develo	pment Goals — 1	Lessons from the	
	Japanese	Experience	−」として Spi	ringerから e-boo	ok として出版するこ	

	とを決定、現在編集中							
	3. 毒性学分科会と共催のシンポジウムを9月11日にオンライン開催							
	4. 発出した提言の英文化							
	意思の表出(※見込み含む)							
	令和2年4月7日 提言「マイクロプラスチックによる水環境汚染の生態・							
	健康影響研究の必要性とプラスチックのガバナンス」を発出							
	開催シンポジウム等							
	令和2年9月11日 公開シンポジウム「毒性学研究のこれから ~「外」か							
	らみた毒性学」(毒性学分科会との共同主催)							
開催状況	令和元年10月21日、令和2年3月18日、令和2年7月6日							
今後の課題等	【3年間の取組の総括】シンポジウムを2回開催し、この中から「提言」の作							
	成と、「学術の動向」2019年10月号特集1にまとめ・公表し、わが国への広							
	報を終えることができた。また特集1は、わが国の半世紀にわたる環境リス							
	クの問題を SDGs 達成のためにアーカイブ化するものであり、Springer から							
	e-book として世界に向けて発信する予定である。また作成した提言は英文化							
	する予定である。							

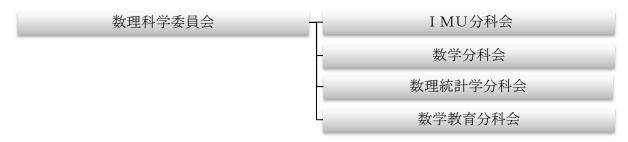
環境学委員会 項	環境学委員会 環境思想・環境教育分科会					
委員長	関礼子	副委員長	氷見山幸夫	幹事	山田育穂・豊田光	
	大打L]		水光田 丰八		世	
主な活動	審議内容					
	環境思想(環	境倫理を含	む)の多様性を明られ	かにすると。	ともに、環境教育が	
	発展する土壌	を育むとい	う観点から、諸学問の	つなかにある	環境思想を見出し、	
	それらを活か	していく可	能性と課題について	考察した。		
	意思の表出 (※見込み含む)					
	記録「統合的環境教育推進の基盤となる理念・価値の共有化に向けて」(SCJ					
	第 24 期 010930-24494000-069)					
	開催シンポジ	ウム等				
	なし					
開催状況	平成 30 年 1 月	月 15 日、平)	成30年5月1日、平	成 30 年 9 月	月 20 日、令和元年 5	
	月 30 日、令和 2 年 3 月 23 日。					
今後の課題等	環境思想から	現代的課題	に応答する方策につい	いて考察する	5.	

環境学委員会 環境政策・環境計画分科会

委員長	横張真	副委員長	西條辰義	幹事	福永真弓•村上暁			
	, , , , ,				信			
主な活動	審議内容	審議内容						
	環境政策・環	環境政策・環境計画における「新たなパートナーシップ」の諸相をとらえ,						
	共通する思想	共通する思想や概念,制度のあり方を考察し,新たなパートナーシップの体						
	系化や今後の	展開方向を	議論した。主にメー	ルでの意見る	交換により、社会学			
	や倫理学を含	む関連分野	における議論の整理	を試み、今往	後の議論の枠組みに			
	ついて検討を	行った。						
	意思の表出(※見込み含	む)					
	本主題と関係	する学術雑	誌「ランドスケープ	研究」(日本	造園学会誌)におい			
	て,委員長・	副委員長・	幹事を含む委員と専	門家による原	座談会を開催し, さ			
	らに座談会の	報告,寄稿	した論考等により、	本分科会での	の議論を反映した特			
	集号を編集し	,出版した	(84(1):変化の時代の	つ都市・地域	のランドスケープ:			
	プランニング	とパートナ	ーシップ.2020 年 4	月)。				
	開催シンポジ	ウム等						
 開催状況								
用惟认优								
今後の課題等	多分野に関わ	る課題であ	ることから、分科会	で議論した	内容を踏まえて関連			
	学界に広く問	題提起を行	い,今後各分野で議	論を展開して	ていく。			

統合生物学委員会・環境学委員会合同 自然環境保全再生分科会						
委員長	鷲谷いづみ	副委員長	吉田丈人	幹事	森本淳子	
主な活動と開						
催状況	1) 令和元年	12月3日に第	第 24 期・第 4 回分科	会を開催し	た。審議内容は、①	
	環境省からの	審議依頼に	対して課題別委員会	がまとめられ	れた回答「人口縮小	
	社会における	社会における野生動物管理のあり方」についての報告と情報交換、②第3会				
	分科会で環境	省等から参	考人を呼んでヒアリ	ング・意見を	交換を行った「自然	
	再生推進法」	再生推進法」の基本方針の改訂についての報告。				
	2) 公開シンス	2) 公開シンポジウム「放棄農地を蘇らせる自然再生」の岩手県一関市にて 5				
	月に開催することをメール審議によって計画し準備を進めたが、コロナ禍の					
	状況を考え、	9月に延期し	したものの、結局、中	中止を余儀な	さくされた。	
今後の課題等	次期に分科会	が発足した	場合にはシンポジウ、	ム開催を期待	寺したい。	

②数理科学委員会



数理科学委員会								
委員長	坪井 俊	副委員長	小澤 徹	幹事	小谷 元子			
主な活動	審議内容							
	・数理科学委	員会は広い	意味での数学に関し	て (1)科学	政策に対する提言、			
	(2)社会への真	貢献、(3)国	際社会との連携を目	的として活動	動を行っている。			
	・数学分科会	、数理統計	学分科会、数学教育	分科会、II	MU分科会の活動の			
	報告を受け、	情報の交換	を行った。主な点は	数学分科会	(これまでの提言の			
	実現の方策、	マスタープ	ラン 2020、学術会議:	シンポジウム	4開催)、数理統計学			
	分科会・数学	教育分科会	(新指導要領、新セ	ンター試験に	に関する提言、ICMI			
	代表派遣)、I	MU 分科会((IMU,ICM2022 対応)。	D.				
	・大型研究計	・大型研究計画評価小分科会委員を選出し推薦した。						
	意思の表出(※見込み含む)							
	・数理科学委員会の分科会からの意思の表出を支援した。							
	開催シンポジウム等							
	・数理科学委員会の分科会のシンポジウム等の開催を支援した。							
開催状況	令和元年 10 月	17 日開催。		審議。令和	2 年 10 月総会時開催			
	予定。							
 今後の課題等	・今後も、広い意味での数学に関して (1)科学政策に対する提言、(2)社会へ							
プログルが発音	・ 气後も、広い意味での数字に関して(1) 科字政衆に対する従言、(2) 社会への貢献、(3) 国際社会との連携を目的として活動を続けていく。							
			・工学系学協会連絡		-			
	・6月 21 日に 会の意見を活			が好な (これ)	(「門)に因所予勝			
	古の忠元で伯	男に区吹る	<u></u> で る。					

数理科学委員会 IMU 分科会					
委員長	小澤 徹	副委員長	なし	幹事	寺尾 宏明
主な活動	審議内容				

	・IMU 事務局からの各種依頼(新規参加国に対する投票、所属グループ変更							
	希望国に対する投票、International Day of Mathematics、ICM2022、に関							
	連する事項)に関して協議し、IMU 前総裁と密に連携を図りつつ、分科会と							
	しての意思を IMU に表出した。							
	・国際的な賞に関する推薦依頼に対し候補者を選出し、当該機関に推薦した。							
	意思の表出(※見込み含む)							
	分科会の設置目的に鑑み、特に予定は無し							
	開催シンポジウム等							
	無し							
開催状況	令和元年7月5日~6日(メールでの意見交換の喚起)、令和2年5月7日~							
	31日(メールでの意見交換の喚起)、6月11日~17日(メールでの意見交換							
	の喚起)							
今後の課題等	これから明らかとなって行く ICM 2022 及び IMU 総会の議題等に関する対応							
	を協議する。特に ICM 2026 に関係する意見集約を、日本数学会をはじめとす							
	る関係学会と協議の上、図って行く。							

*************************************	************************************					
数理科学委員会	数学分科会		T		Т	
委員長	 坪井 俊	副委員長	 小澤 徹	幹事	伊藤由佳理、	
			/1 1辛 /取		杉山由恵	
主な活動	審議内容					
	・第 23 期策	定マスター	プラン 2017 の重点大	、型研究計画	面の中の計画番号 50	
	「数理科学の	深化と諸科	学・産業との連携基盤	盤構築」およ	び第 23 期数学分科	
	会提言「数学	と他の科学	分野や産業との連携	の基盤整備に	こ向けた提言」の内	
	容実現に向け	た具体的な	方策の、マスタープラ	2020 ~C	の数理科学コミュニ	
	ティーからの提案への反映を要請し、提案いただいた。					
	・マスタープラン 2020 での数理科学コミュニティーからの提案の重点大型					
	計画としての	採択をうけ	た学術会議シンポジ	ウムを企画	した(COVID-19 の	
	感染拡大を受	け中止)。				
	意思の表出(※見込み含	t)			
	具体化に向け	審議した。				
	開催シンポジウム等 学術会議シンポジウム「データとAIの時代への数理科学」を 2020 年 3 月 25 日に開催予定であったが、COVID-19 の感染拡大を受け中止した。この内					
			特集を提案し、2020			

開催状況	令和元年 12 月メール審議。令和 2 年 10 月総会時以降開催予定。
 今後の課題等	・マスタープラン 2020 への数理科学コミュニティーからの提案の実現のた
	めに活動する。

数理科学委員会	数理統計学分	科会			
委員長	竹村彰通	副委員長	上田修功	幹事	栗木哲・西郷浩
主な活動	審議内容				
	AI 戦略 2019	(統合イノ・	ベーション戦略推進	会議 令和元	年 6 月 11 日)の公
	表以来「数理	・データサ	イエンス・AI 教育」	が政策目標	となり、認定制度が
	開始されるな	どの動きが	ある。このような中	で数理統計学	学を正しく位置付け
	ることが重要	である。			
	意思の表出(※見込み含	む)		
	今期は特に考	えていない。)		
	開催シンポジ	ウム等			
	今期は特に考	えていない。)		
開催状況	第 24 期第 3 回]の分科会を	令和2年2月15日	(土) に開催	した。
今後の課題等	24 期中を通り	してデータサ	ナイエンス教育の中で	での数理統語	計学の位置づけを議
	論してきたが	、今後も政権	舟の方針である数理	・データサイ	イエンス・AI 教育へ
	の対応を検討	する。			

数理科学委員会	数学教育分科会						
委員長	真島 秀行	副委員長	藤井 斉亮	幹事	小山	正孝	
	· 杂面 为1		MYTT 月 76		渡辺	美智子	
主な活動	審議内容						
	第23期提言、	新学習指導	要領及び同解説を検	討し、新学	習指導勢	要領下での算	
	数・数学教育	数・数学教育の円滑な実施に向け、特に統計教育の実効性の向上に焦点を当					
	てて審議し、	てて審議し、提言案を作成した。					
	・ICMI (International Commission on Mathematical Instruction)総会への						
	代表派遣を決めていたが、総会は1年延期された。						
	意思の表出(※見込み含む)						
	・提言「新学	・提言「新学習指導要領下での算数・数学教育の円滑な実施に向けた緊急提					
	言:統計教育	の実効性の	向上に焦点を当てて	」を令和 2	年 8 月	4 日に表出	
	http://www.s	scj.go.jp/ja	a/info/kohyo/pdf/ko	ohyo-24-t29	93-2. pd	<u>f</u>	

	開催シンポジウム等
	無
開催状況	令和2年3月21日、令和2年4月15日~23日※メール、令和2年10月開
	催予定
今後の課題等	提言の実現、特に統計教育の教員委に対する講習・研修の実施についての活
	動、また、引き続きさまざまな段階の数学教育の在り方についての検討、ICMI
	の活動への対応。

②物理学委員会

 物理学委員会
 IAU分科会

 天文学・宇宙物理学分科会

 IUPAP分科会

 物性物理学・一般物理学分科会

 素粒子物理学・原子核物理学分科会

 物理教育研究分科会

物理学委員会						
委員長	梶田隆章	副委員長	松尾由賀利	幹事	野尻美保子,山崎貞子	典
主な活動	審議内容					
	関連する分科	会から提案	された提言、シンポ	ジウムの関	開催等について意見る	交
	換および審議	を行った。				
	意思の表出(※見込み含	tr)			
	なし。					
	開催シンポジウム等 平成 30 年 12 月 17 日, 学術会議講堂にて行なわれたシンポジウム「基礎科					
						科
	学研究の意義と社会 物理学分野から」の内容をまとめた書籍「基礎科学で未					
	来をつくる」を令和元年 12 月に丸善出版より出版した。					
開催状況	令和元年 12 月 27 日					
	(次回令和2	年8月28日	の予定)			
今後の課題等	今期の活動を	来期に引き	継ぐために、引継ぎ	事項の整理	里を行っている。	

物理学委員会]	IAU 分科会				
委員長	渡部潤一	副委員長	生田ちさと	幹事	山田亨、深川美里
主な活動	審議内容				

	IAU の活動の報告と共に日本からの IAU member および Junior member
	への新規登録会員の審査を行い、それぞれ7名(うち1名はその後、辞退)
	および4名を推薦した。IAUアジア地域会議APRIM2023年の日本招致を決
	定した。
	意思の表出 (※見込み含む)
	開催シンポジウム等
	・IAU シンポジウ 358「Astronomy for Equity, Diversity and Inclusion —
	A Roadmap to Action Within the Framework of IAU Centennial
	Anniversary」令和 2 年 11 月 $12\sim15$ 日に国立天文台三鷹で開催した(日本
	天文学会、自然科学研究機構 国立天文台、宇宙航空研究開発機構 宇宙科学
	研究所などと共催)。
	https://iau-oao.nao.ac.jp/iaus358/
開催状況	令和2年1月27日、令和2年5月8日、令和2年8月20日
今後の課題等	

物理学委員会天	文学・宇宙物理学分科会				
委員長	林正彦	副委員長	山崎典子	幹事	深川美里、山田亨
主な活動	審議内容				
	・若手研究者	のキャリア	パス調査に関する審認	議(まとめ)	
	・安全保障技	術研究制度	に関する審議(継続))	
	・大学共同利	用機関と大学	学・コミュニティと(の関係のあり) 方についての審議
	意思の表出(※見込み含	te)		
	・若手研究者	のキャリア	パス調査の結果を業	界誌に掲載	予定
	開催シンポジウム等				
	令和2年1月	27 日、令和		12年8月20) 日 (予定)
 今後の課題等	• 芋毛研究书	・のキャリア		 めを宝施	
フ仮の味因守					
	・大字共同利	用と大型計	画に関する諸課題の網	継続的検討	

物理学委員会	物性物理学・-	·般物理学分	科会				
委員長	川村光	副委員長	五神真	幹事	森初果、伊藤公平		
主な活動	審議内容						
	マスタープラ	ン 2020 公募	Ŗを契機に、物性委員	会に代表され	れる物性物理コミュ		
	ニティとも密	接な連携を	取りつつ、物性物理	学・一般物理	理学分野の大型研究		
	計画の今後の	展望につい	ての検討を行った。	今後とも、	そのような取り組み		
	を継続させて	いくことと	した。近年、学術会	議全体として	ても、社会や産業と		
	の関わりの中	『での基礎学	術の重要性を訴えて	ていく方向性	性が顕在化しつつあ		
	る。本分科会	でも、社会	や産業との関わりの	中での物性特	物理学・一般物理学		
	の今後の在り	方について	提言発出も視野に入れ	れた検討を行	行ったが、諸情勢に		
	鑑み、今期は	検討結果を	分科会内部のインフ	オーマルな幸	報告文書としてまと		
	めて次期に引	き継ぐこと	とした。				
	意思の表出(意思の表出(※見込み含む)					
	今期は意志の	今期は意志の表出は行わず、今期の検討結果をまとめた「物性物理学・一般					
	物理学分野か	物理学分野から見た我が国の科学技術の現状と将来」を内部文書として次期					
	に引き継ぐこ	ととした。					
	開催シンポジ	ウム等					
開催状況	令和元年 12	月 27 日、令	和2年9月23日(オ	-ンライン)			
今後の課題等	物性物理学•	一般物理学	分野の大型研究計画の	の継続的展望	2。提言発出の検討。		

物理学委員会 物理教育研究分科会					
委員長	笹尾真実子	副委員長		幹事	笠 潤平
	審議内容				
	国内外の物理	教育研究の	進展と大学基礎教育	レベルを中	心としたわが国の物
	理教育の現状	の検討を行	い、物理教育の改革の	の方向性に関	関する審議を行う。
	第 24 期 3 年	目は、昨年	度収集を行った大学	基礎教育レー	ベルの物理教育の現
	状とその分析	に基づいて	、改革に向けた課題の	の整理を行い	ハ、提言すべき内容
	を議論、提言案としてまとめ、上部委員会での査読、審議の段階での議論を 経て提言としてまとめた。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	令和2年8月28日に、学術会議提言「物理学における学問分野に基づく教				
	育研究(DBI	ER)の推進	」を公表した。		
	開催シンポジ	ウム等			

	令和元年9月27日 日本学術会議講堂において、学術フォーラム
	「いま問われる物理教育改革ーより効果的な理工学教育をめざして」を開催
	した。
開催状況	令和元年9月27日 物理教育研究分科会(第4回)提言骨子案について審
	議。
	令和元年 12 月 12 日~19 日 物理教育研究分科会(第 5 回)提言案について
	審議(メール審議)。
	令和2年9月21日 物理教育研究分科会(第6回)今期のまとめと引継事項
	審議。
今後の課題等	提言の周知と具体的方策の審議。情報拾集。

②地球惑星科学委員会

地球惑星科学委員会	T地球惑星科学企画分科会
	地球・惑星圏分科会
	地球・人間圏分科会
	地球惑星科学人材育成分科会
	地球惑星科学国際連携分科会
	I GU分科会
	I UGG分科会
	IUGS分科会
	SCOR分科会
	地球惑星科学社会貢献分科会

地球惑星科学委	地球惑星科学委員会								
委員長	藤井 良一	副委員長	田近 英一	幹事	木村 学,	春山 成子			
主な活動	審議内容								
	・日本地球惑星科学連合(JpGU)・関連学協会・教育研究機関等との連携の								
	強化、及び傘	強化、及び傘下 10 分科会・28 小委員会との連携による地球惑星科学分野の							
	発展支援。								
	・JpGU と連	携して地球	惑星科学分野の	発展に必要	要な将来計	画をまとめた地			
	球惑星科学分	・野の夢ロー	ドマップの改定	を行ない	「報告」と	して発出公表。			
	・傘下の分科	·会から提案	された意思の表	出(案)の審	議。				
	• 地球惑星科	·学関連学協	会長(51 学協会	:) 会議に:	おける懇談	及び情報交換。			
	• 地球惑星和	4学コミュニ	ニティとの関係	強化のた	め、JpGU	の定期刊行物			
	Japan								
	Geoscience L	etters に学	術会議の活動に	関する記事	事を投稿。				
	意思の表出((※見込み含)	む)						
	提言3,報告1,記録1を発出。								
	開催シンポジウム等								
	•『地球環境』	変動と人間活	舌動一世界各地~	で急速に深	深刻化する は	地球温暖化の影			
	響と対策ー』	(地球人間圏	引分科会 2029 年	12月21	日)				
	『地球シスラ	テムと私たち	の生活―人新世	界の想像	力II』(地	以域研究委員会・			
	環境学委員会	・地球惑星	科学委員会合同	HD 分科会	会 2019 年 1	11月10日)			
開催状況	令和元年 12 년	月 24 日,令	和2年7月7日						

第 24 期(3年間)における成果, 課題等

- ・第24期地球惑星科学委員会は計8回開催した。
- ・地球惑星科学分野の大型研究計画案のヒアリングを3回実施した。とくに、3回目は科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会地球惑星科学分野の大型研究計画評価小分科会を公開ヒアリングとして実施し、コミュニティの評価も参考のために収集した。計画の改善に資するためヒアリングの評価及びコメントを研究代表者に伝えるなど、大型研究計画策定に向けた支援を行った。
- ・JpGU ユニオンサイエンスボード会議に検討を要請し、地球惑星科学5分野における中長期計画について取りまとめを行い、報告「地球惑星科学分野における科学・夢ロードマップ(改定)2020」としてまとめ公表した。
- ・公開シンポジウムを13回、JpGU大会ユニオンセッションを4回開催した。
- ・提言3,報告2,記録1を発出。
- ・社会貢献分科会で議論された放射性物質拡散問題については、第25期の早期に提言としてまとめることが望まれる。また、国家存亡に関わる超巨大災害に備えた日頃からの取り組みについて、また国家的緊急時における地球惑星科学からの適切な情報発信のあり方について、さらに検討を進めるべきである。
- ・地球惑星科学分野におけるオープンサイエンス/オープンデータ/データアーカイブ等に関する議論とその具体的実現策の検討を行うべきである。

地球惑星科学委員会 地球惑星科学企画分科会									
委員長	藤井 良一	副委員長	田近 英一	幹事	木村 学、	春山 成子			
主な活動	審議内容	審議内容							
	地球惑星科学	地球惑星科学委員会の活動方針を受け、地球惑星科学委員会での議題や審議							
	の準備と調整、委員会傘下の分科会や小委員会の活動支援等、委員会の執行								
	部機能を果た	部機能を果たすとともに日常的な運営活動を実施した。							
	意思の表出(意思の表出(※見込み含む)							
	報告「地球惑星科学分野における科学・夢ロードマップ(改定)2020」								
	を令和2年5月15日に公表。								
	開催シンポジ	ウム等							
	なし。	なし。							
開催状況	令和元年 12 月	月 24 日、令	和2年1月16日、	3月10日	日、5月11	日、7月7日			
第 24 期 (3 年	・第 24 期地理	球惑星科学企	と画分科会は計 12	回開催し	、地球惑星	科学委員会で			
間)における成	審議された地	審議された地球惑星科学分野の大型研究計画の活動支援や科学・夢ロードマ							
果、課題等	ップ改定等の	方針策定、:	地球惑星科学委員	会傘下の	分科会間の	情報交換と連			
	携等を図った	0							
	・報告「地球	惑星科学分野	野における科学・	夢ロードで	マップ(改分	定) 2020」			

を地球惑星科学委員会及び地球・惑星圏分科会と共同で取りまとめて発出した。

地球惑星科学委員		——— 科会							
委員長	田近 英一 副委	員長	大谷 栄治	幹事	山岡 耕春、	関	華奈子		
主な活動	審議内容								
	·日本地球惑星科学	・日本地球惑星科学連合 (JpGU) と連携して地球惑星科学分野の将来計画を							
	まとめた地球惑星科	まとめた地球惑星科学分野の夢ロードマップの改定を行ない「報告」として							
	公表した。								
	・傘下の地球観測将来構想小委員会において、持続可能な人間社会の基盤と								
	しての我が国の地球	衛星観	測のあり方に	員する議 請	命を取りまと	めて	「提言」		
	として公表した。	として公表した。							
	意思の表出(※見込	意思の表出(※見込み含む)							
	報告「地球惑星科学	報告「地球惑星科学分野における科学・夢ロードマップ(改訂)2020」							
	を令和2年5月15	を令和2年5月15日に公表。							
	提言「持続可能な人間社会の基盤としての我が国の地球衛星観測のあり方」								
	を令和2年7月14	日に公	表。						
	開催シンポジウム等								
	なし。								
開催状況	令和元年 12 月 24 日	、令和	12年7月7日						
第 24 期(3年	・第 24 期地球・惑星	圏分科	4会は、地球惑星	星科学委員	員会と合同で	計 7	回開催し		
間)における成	た。								
果,課題等	・地球惑星科学委員	会と合	·同で、地球惑星	L 科学分野	野の大型研究	計画	案のヒア		
	リングを3回実施し	、大型	!研究計画策定は	こ向けたす	支援を行った。	Þ			
	・地球惑星科学委員	会と合	、同で、地球惑星	星科学の 夢	専ロードマッ	プを	改定し、		
	報告「地球惑星科学	分野に	おける科学・夢	事ロード~	マップ(改定) 20)20」を公		
	表した。								
	・傘下の地球観測将	来構想	小委員会で行っ	った議論を	をまとめ、提	言「	持続可能		
	な人間社会の基盤と				_		-		
	• 地球惑星科学分野			つ衰退への	り対応につい	ては	、今後検		
	討するべき課題のひ	とつで	ある。						

地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会						
委員長	春山成子	副委員長	平田直	幹事	伊藤悟、小嶋智	
主な活動	審議内容					

Future Earth と SDGsに配慮しつつ地球・人間圏科学の推進に向けて 24 期の夢ロードマップを改定するための審議、大型研究計画策定に向けた議論 を行った。第1回目公開シンポジウム開催ではデータ可視化の重要性を踏ま え「グローバル時代のデータ利用の可視化」、第2回目シンポジウムでは地球 温暖化と異常気象を柱とし少子高齢化社会を迎えた地域社会の防災の在り方 について「繰り返される災害」を開催した。学術の動向 2019 年 4 月号では 特集1「グローバル時代のデータ利用と可視化」を公表した。第3回目シン ポジウムではグローバルな視点で自然環境の変動と人間活動との関わりにつ いて災害的な見地を加え、「地球環境変動と人間活動」を開催した。24期では 3回の公開シンポジウム、8回の分科会、ならびにメール会議を開催し、地 球・人間圏科学分科会から、近年の災害事例をもとに、地域社会の災害レジ リエンスにかかわる提言として、「災害が激化する時代に地域社会の脆弱化を どう防」を作成した。提言は2020年5月26日に日本学術会議HPで公表し た。 意思の表出(※見込み含む) 提言「災害が激化する時代に地域社会の脆弱化をどう防ぐか」2020年5月26 日公表 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t289-2.pdf 開催シンポジウム等 2018 年 10 月 15 日公開シンポジウム「グローバル時代のデータ利用の可視 化」、2019年4月5日公開シンポジウム「繰り返される災害―少子高齢化社 会を生き抜くためにー」 2019 年 12 月 21 日公開シンポジウム「地球環境変動と人間活動―世界各地 で急速に深刻化する地球温暖化の影響と対策ー」 開催状況 第1回2017年12月26日、第2回2018年4月6日、第3回2018年8月29 日、第4回2018年10月15日、第5回2019年4月5日、第6回 2019年8 月 27-9 月 2 日メール会議、第 7 回 2019 年 9 月 12 日、第 8 回 2019 年 12 月 21日、第9回2020年1月8-16日メール会議、第10回2020年9月16日開 催予定。

地球惑星科学委員会 地球惑星科学人材育成分科会								
委員長	木村 学	副委員長	福田 洋一 幹事	幹事	西 弘嗣、西山忠			
安良及	\\\(\)\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	刈貝友畑		1 11 → 1	男			
主な活動	審議内容	審議内容						
	毎年5月に全	毎年 5 月に全国関連学科長・専攻長会議を主催し、事前アンケートも含めて						
	大学の専門教	大学の専門教育研究の抱える現状と問題点を交流してきた。令和2年は						
	COVID19 Ø	ために中止	。地惑系、地球環境	系は再編の泊	渦中にあり体系的教			

2020年9月16日に24期提言の普及他の審議を行う

今後の課題等

	育の模索が重要との認識を共有した。
	意思の表出(※見込み含む)
	(提言) 初等中等教育及び生涯教育における地球教育の重要性:変動する地
	球に生きるための素養として(令和2年6月23日公表)
	開催シンポジウム等
	JpGU-AGU 合同大会で「Linking Education and Research Comunities in
	Geoscience」の virtual セッションを実施した。
開催状況	第 24 期・第 6 回地球惑星科学人材育成分科会開催: 令和元年 12 月 25 日
今後の課題等	提言と、COVID19 により重要性の増したサイバー空間での教育のあり方・
	人材育成を、初等教育から高等教育、そして一般社会との関係を探る必要が
	ある。

地球惑星科学委	員会 地球惑	星科学国際证					
委員長	中村 尚	副委員長	小口 高	幹事	伊村夫	智、	塩川和
主な活動	の連絡・調整 科会と当分科 とが審議の主	に関する諸 会傘下の 6 目的である。	活動の振興、国際対 事項の審議を行う。 小委員会があり、そ 。相互連携の一層の ・STPP 両小委員会の	上記委員会はれら相互間の緊密化のたる	こは、国 の緊密連 め、23 其	際関連携を	係 5 分 図るこ o 24 期
	傘下に持たない COSPAR、IMA、INQUA の3分科会を当分科会傘下の小委員会に移行した。また、傘下の6小委員会から対応する国際学術団体の運営に貢献するため、各年度3~4名を代表派遣してきた。 意思の表出(※見込み含む) 特になし。						
	国際連携が本 の拠出金支援	研究対象と 質的に重要 先の国際学	する地球惑星科学に であり、本分科会傘 術団体の日本側窓口 や主シンポジウムの	下の各小委員として重要に	員会が学 な役割を	余余	議から してお
開催状況		,	26 日、平成 30 年 1: 員会は概ね年 1~3 回	•	一—— 令和元年	12)	月 24 日

今後の課題等	関連 5 分科会や傘下の 6 小委員会の活動と対応する各国際学術団体の貢献が
	評価され、加入国際団体として拠出金が継続される見通しである。なお、新
	型コロナウィルス感染の世界的蔓延により国際連携活動に支障が出ており、
	こうした状況が続けば今後の国際連携活動に重大な影響をもたらしかねな
	۷٬ _°

地球惑星科学委員会 I GU分科会						
委員長	小口 高	副委員長	井田 仁康	幹事	山田 育穂	
主な活動	審議内容					
	1) IGU (国際	地理学連合)	の活動と日本の貢献	状に関する審	F議、2)地理オリン	
	ピックに関す	る審議、3)	ICA(国際地図学協会	(*) の活動に	関する審議、4)IAG	
	(国際地形学	会)の活動	に関する審議、5)均	名に関する	諸問題の審議、6)	
	公開シンポジ	ウム等の企	画。3~5 は対応する	小委員会が	それぞれ設置されて	
	おり、そこでの検討を含む。					
	意思の表出 (※見込み含む)					
	開催シンポジ	ウム等				
	令和2年9月	に、IGU の著	舌動として市民啓蒙/	イベントの (GeoNight2020 Japan	
	を開催予定で	あったが、	新型コロナウィルスの	のため延期。		
開催状況	令和元年 12 년	月 27 日、令	和 2 年 3 月 14 日、令	和2年9月	14 日	
今後の課題等	2021 年に延其	明となった I	GUトルコ大会への対	·応、令和元	年 9 月 20 日に公表	
	した地名に関	する報告「:	地名標準化の現状と	課題」を踏る	まえた活動など。	

地球惑星科学委員会 IUGG分科会								
委員長	中田節也	副委員長		幹事	東久美子、佐竹健 治			
主な活動	審議内容	審議内容						
	IUGG 傘下の8国際アソシエーションの窓口である8小委員会では、小委員							
	会をそれぞれ	会をそれぞれ開催するとともに、活発にそれぞれの活動を展開した。 <u>IACS</u>						
	は雪氷学会の	活動として	、積雪分類 WG の会合	を開催した	。 <u>IAG</u> は、日本が			
	全球統合測地	観測システ	ム GGOS の参加組織と	なり議長に	地理院宮原氏が就			
	任。次期委員	任。次期委員構成について議論した。 <u>IAGA</u> は Summer Student School の講						
	師を日本から	も推薦する	ことを決めた。 <u>IAHS</u>	は IAEA/RCA	シンポジウム 2019			
	において活動	報告をした。	。 <u>IAMAS</u> は気象学会と	と合同で、地	地球衛星観測、デー			

	タ利用、放射能汚染対策に関して情報交換を行った。 <u>IAPSO</u> は、Early							
	Career Scientist Working Group の活性化、Best Practice 活動補助を議論							
	した。 <u>IASPEI</u> は次期委員会体制についての議論をした。 <u>IAVCEI</u> も次期体制							
	を議論とともに、海域の国際共同研究情報を収拾した。第27回 IUGG 総会							
	(令和元年7月モントリオール市)のまとめが代表派遣報告として日本学術							
	会議のHPに公表された。							
	意思の表出(※見込み含む)							
	現在のところ予定なし							
	田川出され、追うさようたが							
	開催シンポジウム等							
	なし							
 開催状況	令和元年5月以降開催できていない。本年5月開催予定もコロナ禍で開催で							
	 きず、6月下旬にメール交換を実施。9月にオンライン開催予定。							
今後の課題等	8 小委員会が連携して地球物理学(IUGG)分野における日本のプレゼンスを							
	示す方策、および、そのための次期分科会への申し送り事項の取りまとめ。							

地球惑星科学委員会 IUGS分科会							
委員長	西 弘嗣	副委員長	北里 洋	幹事	斎藤文紀、益田晴 恵		
 主な活動	審議内容				7EA		
工/41日第	今年は国際地質会議 (IGC) の開催年であったが, 感染拡大のため延期となり,						
	3月と5月予定の公開シンポジウムも中止となり、国際的・国内的な活動が						
	制約された.	一方,2020	年1月14日~18日	の IGC の理事	事会では「チバニア		
	ン」の名称が	承認された.	さらに,次期 IUGS	の執行部には	化里委員が会計とし		
	て再び候補にあがったが,会議が中止となり選挙は中断している. <u>ILP 小委</u>						
	<u>員会</u> は,2つ	の新規 IGC	プロジェクトを推薦	し, <u>IAH 小</u> 夏	<u>委員会</u> は国際的な若		
	手会員のため	のネットワ	ーク設立を行い, 国	際的な活動原	成果をあげている.		
	意思の表出(※見込み含	t)				
	特になし						
	開催シンポジ	ウム等					
	IUGS 分科会に	t, 2019年1	1月23日に「国際標準	準模式層断記	面および地点に関す		
	るシンポジウ	ム」, <u>ICS </u> /J	<u> 委員会</u> は 12 月に「	沖縄瀬底プラ	ランクトンワークシ		
	ョップ」, <u>IPA 委員会</u> は,2019 年 11 月 17 日~19 日に「第1回アジア古生物						
	学会」の開催	に協力した	. この後のシンポジ	ウムや国際会	会議等は感染拡大の		
	ため中止およ	び延期され	ている.				

開催状況	<u>IUGS 分会</u> は,第5回(メール審議,2019年11月1日~5日),第6回(メー								
	ル審議,令和2年2月12日~17日),第7回(令和2年3月25日)の会議								
	を開催. <u>IPA 小委員会</u> は,第4回(令和2年2月9日), <u>IAH 小委員会</u> では令和								
	元年 12 月に日本支部総会(メール会議), <u>ILP 小委員会</u> も令和 2 年 8 月 7 日								
	にオンライン会議を開催した.その後、小委員会の開催は感染拡大により中								
	止および延期となった.								
今後の課題等	今期の最も大きな成果は「チバニアン」の認定に貢献したことである. 一								
	方、準備していた多くの公開シンポジウムなどが、感染拡大により延期とな								
	っているので,時期をみて再提案したい.昨年中止の IGC の開催もいまだ不								
	透明である.								

地球惑星科学委員	地球惑星科学委員会 SCOR分科会								
委員長	山形俊男	副委員長	窪川かおる、張	幹事	蒲生俊敬、沖野郷				
	山沙医力		勁		子				
主な活動	審議内容								
	・SCOR (海洋研	开究科学委員	会)における我が国	の国際貢献原	度を高め、かつ国内				
	の海洋科学研	究・教育の推	単進と社会への発信強	館化を図る方	「策について議論し、				
	シンポジウム	の開催や「	学術の動向」特集号	などによるネ	舌動広報を強化する				
	ことを審議。								
	・分科会所属	Ø GEOTRACE	S, SIMSEA, IIOE-2 Ø	3 小委員会為	がそれぞれ活動中。				
	· 令和 2 年 1	月1日に Pa	tricia Miloslavich	氏が国際事	務局長に就任。				
	・SCOR WG 提	案10件を	令和2年7月30日に	二開催した第	5 24 期第 8 回分科会				
	においてレビ	ュー。我が	国としての評価結果は	は令和2年	8月中に国際事務局				
	に提出予定。令和2年10月20日—23日にオンライン開催されるSCOR年会で審議予定。 ・令和元年9月23日から25日に我が国が担当して富山国際会議場でSCOR年会を開催。この時に開催した国際シンポジウム「日本の海洋科学:現在と将								
	来」の内容に	基づき、「月	刊海洋」の特集号を	令和2年8	月に出版。				
	·令和元年 11	月7日に開	催した学術会議公開	シンポジウ	ム「国連海洋科学の				
	10 年-One 0	cean の行動	に向けて」に関する	「学術の動	向」特集号を令和3				
	年1月に出版	予定。							
	意思の表出(※見込み含む) シンポジウムやそれに基づく「学術の動向」特集号などを複数企画し、分科								
	会活動の社会	発信を強化	したことから、今期	は「報告」	こよる意見の表出は				
	見送った。								
	開催シンポジ	ウム等							

	令和元年 11 月 7 日「国連海洋科学の 10 年 - One Ocean の行動に向けて」(笹川平和財団 国際会議場)
開催状況	令和元年12月23日(第7回)、令和2年7月30日(第8回)
今後の課題等	平成30年12月に海洋研究船の役割の重要性に関して行った公開シンポジウムの成果は令和元年11月号の「学術の動向」に「研究船による海洋観測―地球環境問題解明と社会への成果還元に向けてー」と題した特集として掲載された。これらの分科会活動は「白鳳丸」の改修計画に寄与したと評価されている。国連総会決議の「国連海洋科学の10年」が令和3年から10年計画で開始される折から、これに関して令和3年1月に発行予定の「学術の動向」特集号は極めてタイムリーである。

地球惑星科学委員会 地球惑星科学社会貢献分科会								
委員長	高橋桂子 副委員長 大久保修平 幹事 田近英一・益田							
主な活動	審議内容							
	第 22 期にと	りまとめた携	是言に対するフォ	トローアップ	プを基盤に、第24期にお			
	ける議論をと	りまとめ、貧	第25期に取り組	しむべき課題	を明確にした。課題とし			
	て、(1)放射	付性物質拡散	(問題についての	提言のとり	まとめ(2)国家存亡に			
	かかわるほど	の超巨大災	害への対応 (3))危機にお	ける学術からの情報発信			
	の仕組みの構	築(4)当	該分野における	「研究者人	材バンク」の実現(5)			
	国等の公的委	員会と日本	学術会議や学協	会との連携	を挙げ、各課題について			
	今後必要とな	る取り組み	を明らかにした。	。これらの	検討結果と活動の詳細に			
	ついては記録	としてとり	まとめた。					
	意思の表出(※見込み含	to)					
	開催シンポジ	ウム等						
開催状況	第3回(令和元年12月25日)、第4回(令和2年7月31日)							
今後の課題等	記録に明示し	た課題と対	応策に対して、	着実に実行	することが今後の課題で			
	ある。							

②情報学委員会

情報学委員会	T 情報ネットワーク社会基盤分科会
	- 国際サイエンスデータ分科会
	- ビッグデータ分科会
	- 情報学教育分科会
	- 環境知能分科会
	安全・安心社会と情報技術分科会
	- ソフトウェア学分科会
	- ITの生む諸課題検討分科会
	- ユビキタス状況認識社会基盤分科会
	教育データ利活用分科会

情報学委員会								
徳田英幸	副委員長	東野輝夫	幹事	相澤清晴・相澤彰 子				
審議内容								
・産官学を越	えた俯瞰的	な情報学の観点から	、関連研究	分野とも連携し、社				
会的課題や学	術的課題に	関して審議した。						
・情報学シン	ポジウム 「]	ICT によるスポーツ	分野のイノ〜	ベーション」を企画				
し、令和2年	1月9日 に	こ学術会議講堂にて関	開催した。					
意思の表出(※見込み含	む)						
・提言「我が国における教育データの利活用に向けた提言―エビデンスに基づく教育の推進―」(教育データ利活用分科会、幹事会附議後修正中、未公表)								
							・報告「情報教育課程の設計指針 ― 初等教育から高等教育まで」(情報学教	
育分科会。質保証委員会附議予定、未公表)								
・提言「感染	症対策と社会	会変革に向けた ICT	基盤の強化。	とデジタル変革の推				
進」(ユビキタ	マス状況認識	社会基盤分科会、第	二部大規模	感染症予防・制圧対				
策検討分科会	合同、未公	表)						
開催シンポジウム等								
・R3.1: 情報	学シンポジ	ウムを企画予定(開作	崔予定)					
	審議内容・越会・では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	審議内容 ・産官学を越えた俯瞰的会的課題や学術的課題に・情報学シンポジウム「し、令和2年1月9日に意思の表出(※見込み含めで表別では、教育の推進一」(教育の推進一」(教育の推進一」(教育の推進一」(教育・報告「情報教育課程の調育分科会。質保証委員会は、提言「感染症対策と社会進」(ユビキタス状況認識策検討分科会合同、未公開催シンポジウム等	審議内容 ・産官学を越えた俯瞰的な情報学の観点から会的課題や学術的課題に関して審議した。 ・情報学シンポジウム「ICT によるスポーツし、令和2年1月9日 に学術会議講堂にて関意思の表出(※見込み含む) ・提言「我が国における教育データの利活用づく教育の推進一」(教育データ利活用分科会・報告「情報教育課程の設計指針 一 初等教育分科会。質保証委員会附議予定、未公表)・提言「感染症対策と社会変革に向けた ICT進」(ユビキタス状況認識社会基盤分科会、第策検討分科会合同、未公表) 開催シンポジウム等	審議内容 ・産官学を越えた俯瞰的な情報学の観点から、関連研究会的課題や学術的課題に関して審議した。 ・情報学シンポジウム「ICT によるスポーツ分野のイノーし、令和2年1月9日に学術会議講堂にて開催した。 意思の表出(※見込み含む) ・提言「我が国における教育データの利活用に向けた提高では、教育の推進一」(教育データ利活用分科会、幹事会附属で報告「情報教育課程の設計指針 一 初等教育から高等教育分科会。質保証委員会附議予定、未公表)・提言「感染症対策と社会変革に向けた ICT 基盤の強化進」(ユビキタス状況認識社会基盤分科会、第二部大規模に、				

開催状況	・令和2年5月13日Web開催
今後の課題等	・アフターコロナ社会における社会的課題や情報学的課題について継続審議
	する。

情報学委員会 情報ネットワーク社会基盤分科会									
委員長	下條 真司	副委員長	江崎 浩	幹事	大柴 小枝子				
主な活動	審議内容								
	24 期中に大き	型研究計画	(マスタープラン) や	提言等をま	とめていくことを目				
	標に、ビッグ	データや Io	T に基づくエネルギ	一、交通な	ど新たな社会サービ				
	スを支えるネ	ットワーク	そのもの、スマート	ネットワー	ク、モビリティネッ				
	トワークなど	を変革する	社会デザインととも	に議論し、	マスタープラン学術				
	大型研究計画	(区分 I)	「Society 5.0 社会をす	支えるゼロコ	エナジーloT ネット				
	ワーク研究拠	『点」を取り	まとめた。また、ス	本テーマに	関するシンポジウム				
	を開催し外部	から意見を	広く収集した。						
	意思の表出(※見込み含む)								
	なし								
	開催シンポジ	ウム等							
	令和元年11	月15日 2	∖開シンポジウム「⊱	Society5.0	時代の CPS」(ビ				
	ッグデータ分科会、ユビキタス状況認識社会基盤分科会と共同開催)								
開催状況	平成 30 年 1	月 11 日、平	成 30 年 10 月 1 日	(ビッグデー	ータ分科会、ユビキ				
	タス状況認識社会基盤分科会と共同開催)、令和元年9月6日(金)~9								
	日 (月) ※メ	ール、令和き	元年 11 月 15 日(ビッ	グデータ気	分 科会、ユビキタス				
	状況認識社会	:基盤分科会	会と共同開催)						
今後の課題等	上記2分科会	との連携に	ついて議論する。						

情報学委員会 ビッグデータ分科会							
委員長	木俵豊	副委員長	相澤 清晴	幹事	鳥澤 健太郎		
	小 似豆		7日7年 1月1月		辻 ゆかり		
主な活動	審議内容						
	ビッグデータ分科会ではデータ利活用の法的課題についての分科会や 3 分科						
	会合同で Society5.0 時代の CPS シンポジウムでのシンポジウムの開催を行						
	い、ビッグデータ利活用の課題などの議論を行ってきた。令和2年1月9日						
	の分科会においては IoT 時代のビッグデータ解析においては生産現場におけ						
	る課題も多い	という意見	が出され、機械工学	委員会・生産	産科学分科会との共		

同開催によるシンポジウムの開催を計画する事となった。その後、生産科学
分科会との間でメールにて検討を進めたが、新型コロナウイルスの感染拡大
に伴い今年度の開催は困難であるという判断となった。
音思の表出(※見込み会な)

意思の表出(※見込み含む)

特になし。

開催シンポジウム等

平成30年度はデータ利活用における法的課題のシンポジウムを行い、令和元年度は3分科会合同で公開シンポジウム「Society5.0時代のCPS」を開催してSociety5.0のためのビッグデータ解析技術について議論を行った。令和2年度は情報学とは異なる視点でのビッグデータ利活用技術について議論するために、機械工学委員会・生産科学分科会との共同開催によるシンポジウムなどを検討していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、実会場での開催が困難となったため今年度の開催を中止し、次年度以降に開催を計画することとした。

開催状況

今後の課題等

機械工学委員会・生産科学分科会との共同シンポジウムの開催等

情報学委員会	情報学委員会 情報学教育分科会							
委員長	萩谷昌己	副委員長	徳山豪	幹事	岩崎英哉			
主な活動	審議内容	審議内容						
	初等中等から	初等中等から大学専門基礎までの情報教育を体系化する「情報教育の参照基						
	準」の(大学	教育の分野	別質保証および幹事	会における)	審議に対応して、			
	委員長、副委	員長、久野	靖特任連携会員を中	心に改訂を達	進めた。			
	意思の表出(※見込み含	む)					
	「情報教育の	参照基準」	を改題した報告「情	報教育課程の	の設計指針一初等教			
	育から高等教	育から高等教育まで」が、24期末に公開される予定である。						
	開催シンポジ	ウム等						
	なし。							
開催状況	上記のように委員長、副委員長、久野靖特任連携会員を中心に報告に関する							
	協議を行った	協議を行ったが、コロナ感染拡大もあり、分科会の開催はなかった。						
今後の課題等	上記報告を実	際に教育現	場で活用することなっ	ど。				

情報学委員会								
委員長	萩田 紀博	副委員長	土井 美和子	幹事	西田眞也、橋本隆子			
主な活動	審議内容							
	• 分科会活動	の論点:百	寿社会を幸福に生存	していくた	めに、物理空間と情			
	報空間のバラ	ンス良く使	い分ける技術を「情	報学的生存	技術」と呼び、その			
	研究課題と倫	理的・法的・	社会的·経済的(ELS	SE)課題につ	いて議論を進めた。			
	• 令和元年度	は分科会3	回、公開シンポジウ	ム1回開催。				
	意思の表出(※見込み含	む)					
	·平成30年月	度までの分科	∤会活動・公開シンポシ	ジウムを、記録	引第24期情報学委			
	員会環境知能	分科会記録	ーシンポジウム記録-	として、令和	元年度の公開シン			
	ポジウムを記	録案「第2	4期情報学委員会環	境知能分科会	会記録-2019年			
	度シンポジウ	ム記録ー」と	こして、それぞれ報告	Ė.				
	•課題別委員会	会「認知障害	に関する包括的検討る	委員会」には2	第三部代表として当			
	分科会委員長	と副委員長な	バ委員として参加。 提言	言案「認知症	に対する学術の役割			
	-「共生」と「予	防」に向けて.	」を事務局に提出(令和	和2年6月)	0			
	開催シンポジ	ウム等						
	令和元年 11	月 2 日(土)	:第2回公開シンポミ	ジウム 「百寿	 幸社会に生き残るため			
	の情報学的生存技術」(芝浦工業大学芝浦キャンパス)」開催。							
開催状況	分科会開催:	令和元年 11	月2日(土)第7回	分科会,令和	和2年1月9日(木)			
第8回分科会,令和2年6月~7月第9回メール審議:記録案「第2								
	報学委員会環境知能分科会記録-2019年度シンポジウム記録-」の承認に							
	ついて。							
今後の課題等	特になし							

情報学委員会 安全・安心社会と情報技術分科会									
委員長	柴山 悦哉	副委員長	宮地 充子	幹事	高田 広章、松浦 幹太				
主な活動	審議内容								
	・サイバーセキュリティ、パーソナルデータの保護と利活用、IoT、ビッグデ								
	ータ、AI などの発展が社会に及ぼす影響について、学術的な観点からの問								
	題分析と貢献の可能性について検討を行なった。								
	・昨年に引き続き、セキュリティ研究のための研究倫理ガイドラインに関す								
	る検討を行なった。今年は、セキュリティ研究の法的問題に関する検討も								
	合わせて行	合わせて行なった。							
	意思の表出(※見込み含	む)						

	開催シンポジウム等
開催状況	令和元年10月10日、令和2年1月9日
今後の課題等	・今期の特徴的活動として、セキュリティ研究を今後実施するために必須となりそうな倫理面・法律面の諸課題に関する集中的検討を行なった。 ・パンデミックの影響で、人類の諸活動が、情報技術やサイバー空間に依存する度合いが急増したことから。今後は、サイバー空間の安定性が今までとは違ったレベルで重要となる時代に適した審議や啓発活動を行う必要がある。

情報学委員会 ソフトウェア学分科会								
委員長	松本健一	副委員長	大堀淳	幹事	山本里枝子, 位野木万里			
主な活動	審議内容							
	提言骨子案を	「情報学の新	所たな枠組みと	こしての次世	:代ソフトウェア学の創生」			
	と改題し検討	したが、提	言, あるいは	,報告として	ての表出までには至らなか			
	った.							
	ただし、本分科会での議論や検討の一部を反映して提出した「Society 5.0を							
	支えるソフトウェア開発運用の革新的基盤技術」が,第 24 期学術の大型研究							
	計画に関する	マスタープ	ラン(マスタ	ープラン 202	20) の学術大型研究計画の			
	ひとつとして採択された.							
	意思の表出 (※見込み含む)							
	該当なし.							
	開催シンポジ	ウム等						
	該当なし.							
開催状況	該当なし.							
今後の課題等								

情報学委員会	IT の生む諸課題検討分科会					
委員長	喜連川 優	副委員長	安浦 寛人	幹事	須藤 修, 東野 輝夫	
主な活動	審議内容					

	IT は発展が目覚ましく、一般の人々の身近な生活の場面に浸透し活用されて							
	きているが、一方で様々な社会問題も生じてきている。本分科会ではこのよ							
	うな IT 分野の「光」と「影」やその適切なあり方について審議している。							
	意思の表出(※見込み含む)							
	特になし							
	開催シンポジウム等							
	令和元年9月4日(水)に公開シンポジウム「災害時における ICT の役							
	割・反省・今後」を日本学術会議講堂で開催した。							
開催状況	令和2年1月9日(木)(第24期・第7回)情報学委員会併設:令和元年9							
	月4日(水)に開催したシンポジウムの内容や今後の分科会活動について議							
	論した。							
今後の課題等	今後もIT分野の「光」と「影」やその適切なあり方について議論していく予							
	定。							

情報学委員会	情報学委員会 ユビキタス状況認識社会基盤分科会							
委員長	東野 輝夫	副委員長	美濃 導彦	幹事	佐藤 一郎,	盛合 志帆		
主な活動	審議内容							
	Society 5.0	の実現に向い	けた科学技術の研	肝究開発と	その社会実	装の実現や,		
	IoT や AI を	舌用した近未	来のスマート社会	会の実現な	さどに向け、雰	見状の把握と		
	今後の技術課	題などを議	論し、シンポジウ	リムの開催	や意思の表出	はを行うこと		
	を審議した。							
	意思の表出(※見込み含	む)					
	第二部大規模	感染症予防	•制圧体制検討分	科会と共同	司で、「感染症	E対策と社会		
	変革に向けた	ICT 基盤	強化とデジタル変	革の推進	」に関する携	皇言を表出予		
	定。							
	開催シンポジウム等							
	本分科会と情	報ネットワ	ーク社会基盤分科	会、ビッ	グデータ分科	会の3分科		
	会合同で、令	和元年 11 月	15 目 (金) に公	:開シンポ	ジウム「Soci	ety 5.0 時代		
	のCPS」をE	本学術会議	講堂で開催し、S	Society 5.0) 時代の CPS	の現状と近		
	未来の課題な	どを議論し	た。					
開催状況	令和元年 11 丿	月 15 日 (金)	分科会(第24期	明・第5回) 公開シンオ	ポジウム開催		
	令和2年1月	9日(木)	(第 24 期・第 6 回	回) 情報学	委員会併設、	今後の活動		
	議論							
	令和2年7月	16 日 (木)	(第 24 期・第 7	'回)ウェ	ブ開催、提言	案について		
	議論							

|--|

今後もSociety 5.0 の実現に向けた現状把握と技術課題を議論していく予定。

心理学・教育学	心理学・教育学委員会・情報学委員会合同 教育データ利活用分科会						
委員長	美濃 導彦	副委員長	楠見 孝	幹事	緒方 広明、	谷口	倫一郎
主な活動	審議内容						
	エビデンスに	基づく教育	を実現するため	かに、教育	データの利温	舌用に	向けた、
	データ利用プ	゚ラットフォ	ーム、プライノ	ジー保護	等の諸課題は	こつい	て議論を
	行った。特に	、心理学・	教育学および情	青報学の 2	つの視点から	うの議	論を集中
	的に進めた。						
	意思の表出(※見込み含む)						
	提言「我が国における教育データの利活用に関する提言―エビデンスに基づ						
	く教育に向け	て一」を 24	期中に発出す	べく準備を	と進めており、	、現在	査読中で
	ある。						
	開催シンポジウム等						
	令和 2 年 3 月 15 日に「第二回 ラーニングアナリティクスによるエビデン						
	スに基づく教育に関するシンポジウム」をオンラインで開催した。						
開催状況	令和元年6月14日、令和元年10月8日、令和2年3月15日に開催した。ま						
	た、それ以外	に1回のメ	ール審議を行っ	った。			
今後の課題等	オンラインの	教育機会拡	大に伴う,教育	育データ利	活用環境の團	を備に	関する方
	策						

②化学委員会

化学委員会	化学企画分科会
	IUPAC分科会
	I U C r 分科会
	- 物理化学・生物物理化学分科会
	- 無機化学分科会
	- 有機化学分科会
	- 高分子化学分科会
	- 材料化学分科会
	- 分析化学分科会
	- 結晶学分科会
	- 生体関連化学分科会
	- 触媒化学・化学工学分科会
	- 化学分野の参照基準検討分科会
	国際周期表年記念事業検討分科会

化学委員会									
委員長	加藤 昌子	副委員長	茶谷 直人	幹事	君塚 信夫、関根 千津				
主な活動	審議内容								
	27 日)。全体 うとともに、 尚中部大学教 子広島大学理 ・「情報科学。 て議論し、シ 記)。	会議では、 大学改革にな 対授)、およで 関事・副学長 との融合によ ンポジウムで	化学委員会および行 焦点を当て、二つの び「地方にある大学)をいただき、請 る新化学創成小委 で意見聴取をした内	各分科会から D講演「大学 学の活性化 養論を行った 員会」(阿原 1容をまとめ	した(令和元年 12 月 5、活動状況報告を行 学革命」(講師:山本 を」(講師:相田美砂 た。 兄雅文委員長)におい り、提言を発出した(下				

	ンポジウムをオンラインで開催した (下記)。WEB 会議の利便性を反映し							
	て、100名を超える参加者があった。							
	意思の表出 (※見込み含む)							
	提言「化学・情報科学の融合による新化学創成に向けて」(令和2年7月7日							
	発出)							
	開催シンポジウム等							
	公開 WEB シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議『光り輝く博士課程							
	卒業生」(令和2年6月3日、WEB会議)							
開催状況	(24期) 第9回 令和元年10月16日、第10回 令和元年12月26日、							
	第11回令和2年3月24日、第12回令和2年6月3日(WEB会							
	議)、							
	第13回 令和2年7月22日 (メール審議)							
今後の課題等	博士課程卒業生の企業での活躍や重要性を広める活動を引き続き行う。							

化学委員会 化学	学企画分科会						
委員長	加藤 昌子	副委員長	茶谷 直人	幹事	君塚 信夫、関根 千		
	7347134 🗀 1		水石 邑八		津		
主な活動	審議内容						
	・上記化学委	員会の活動	と連携して、公開シ	ノンポジウム	(令和2年6月3日)		
	および合同分	科会(令和)	元年 12 月 27 日) に	こおける具体	本的な企画を行った。		
	•「情報科学。	との融合によ	る新化学創成小委	員会」(委員	員長:阿尻雅文)にお		
	いて提言の作	成を行い、	内容検討と議論を行	うった。			
	意思の表出(!(※見込み含む)					
	提言「化学・	情報科学の融合による新化学創成に向けて」(令和2年7月7日					
	発出)						
	開催シンポジウム等						
	公開 WEB シ	開 WEB シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議『光り輝く博士課程					
	卒業生」(令和	和2年6月3	日、WEB 会議)				
開催状況	(24期) 第	5 回 令和元	E年 12 月 26 日、第	6回 令和	2年24日、		
	第	7回 令和2	年6月3日 (WEB:	会議)			
今後の課題等	時期、化学委	員会合同分	科会および公開シン	 ノポジウム <i>0</i>	D企画を行う。		

化学委員会 IU	PAC 分科会				
委員長	酒井 健	副委員長	茶谷 直人	幹事	竹内 孝江、所 裕子
主な活動	審議内容				

	・これまでの活動報告を踏まえ、今期の活動方針を議論した(令和元年 12 月
	26 日)。
	・IUPACのDivisions や Standing Committees の活動に、より多くの日本か
	らの委員が参加していくために、Titular Members, Associate Members,
	National Representatives の候補者についての議論を行った(令和元年 12 月
	26 日)。
	・日本化学会 IUPAC 賛助会員委員会を開催し、IUPAC での活動報告を行うと
	ともに、今後の活動について意見交換をした(令和元年11月5日)。
	・国際周期表年(2019)・各種記念事業について、国内で多くのイベントが活
	発に行われるよう議論を行い、広報活動等を行った。
	・国際周期表年(2019)・閉会式について、実行委員会組織の一員として議論
	に参加、式の開催に貢献した。
	・IUPAC Bureau Meeting に酒井が出席し、IUPAC の今後の活動方針等の審議
	に参加した(令和2年4月25日)
	・IUPAC Bureau として現在 IUPAC 各種活動に関わる各種の行動規範、ハラス
	メント防止のための行動指針などの策定を進めている(令和2年7月―、酒
	井)。
	意思の表出(※見込み含む)
	・国際周期表年 2019 https://iypt.jp/about/top.html
	・IUPAC Bureau Meetingに出席、各議題の討論に参加。
	開催シンポジウム等
	・国際周期表年 2019 https://iypt.jp/about/top.html
開催状況	令和元年 12 月 26 日
今後の課題等	第 24 期は、IUPAC General Assembly や Bureau Meeting など多くの国際的会
	合に本分科会委員が出席し、日本の存在感を高めた。また、国際周期表年 2019
	記念シンポジウムを主催するとともに、国際周期表年 2019 に関連する国内外
	のイベントについて、開催に向けた議論への参加、イベントへの出席、広報
	活動の実施など、活発に活動を行った。今後、IUPACの活動において日本がよ
I	

化学委員会 II	JCr 分科会				
委員長	高田昌樹	副委員長	_	幹事	菅原洋子、井上豪
主な活動	審議内容				
	令和2年8〕	月に開催予定	どであった国際結晶学	会議および	総会(IUCr2020)
	へ向けて代表	そ派遣の準備	を進めていたが、C	OVID-19 原	蒸染拡大を受けて、
	IUCr2020 が	1 年間延期	になった。改めて、	IUCr2021 🕯	総会への対応を開始
	した。一方で	、喫緊の国	際的な課題であるコ	ロナウイル	スの撲滅のため、創

り一層存在感を高めていくために、引き続き努力を続ける。

薬、製薬、医療機器開発の分野で、グローバルな解決策を探る学術として結
晶学が重要な役割を果たしている。「新しい生活様式」が世界中で模索されて
いる現在、我が国の結晶学の国際的な貢献の観点から、化学委員会、結晶学
分科会と共に WEB シンポジウム「COVID-19 パンデミックを契機として考
える日本の結晶学の現状と今後」(令和2年11月開催予定)の企画し準備を
進めている。
意思の表出(※見込み含む)
なし

開催シンポジウム等

WEB シンポジウム「COVID-19 パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」(令和 2 年 11 月 29 日開催予定)企画申請中(化学委員会・物理学委員会化学委員会合同結晶学分科会・化学委員会 IUCr 分科会主催、日本結晶学会共催)

開催状況

令和元年12月26日、令和2年6月12日

今後の課題等

・IUCr2021、アジア結晶学会 (AsCA) 等を通じて、コロナウイルスの撲滅のための貢献を含め、我が国の結晶学とこれを取り巻く分野で、Academic Social Responsibility (ASR) を果たしていく。また、ジェンダーバランスの実現に、引き続き寄与していく。

化学委員会 物理	理化学・生物物:	理化学分科会				
委員長	相田 美砂子	副委員長	所 裕子	幹事	山本 達之,	村越 敬
主な活動	審議内容					
	第5回分科会	(令和元年 12	月 26 日) ①地方	にある大学	学における教	育研究環
	境の現状把握の	と問題提起に関	関して,大学間 <i>の</i>	連携の在り	り方や小中学	校の教員
	の理想的な在	り方、共同利用	用施設に求められ	る対応など	どについて、	②研究者
	の評価方法に	関して、現状の	の問題点と改善に	有効な方法	まなどについ	て,議論
	した。第6回名	}科会(令和 2	年9月23日)新	f型コロナ「	ウイルス感染	症への対
	応が長期間必要	要となる状況 ̄	下における, とく	に実験的な	な研究活動の	活性化に
	ついて, また,	地方にあるこ	大学の研究環境の	改善につい	へて、議論し	<i>t</i> =。
	意思の表出(※見込み含む)				
	開催シンポジリ	ウム等				
	化学委員会合同	司分科会合同会	会議(令和元年 12	2月26日)	において,「	地方にあ
	る大学の活性化	比を」という思	題目で,相田(委	員長)が調	構演した。ま	た,講演
	のなかで、「個	人研究費に関	するアンケート」	を配布し,	出席者に回	答を依頼

	した。45 人から回答を得た。
開催状況	令和元年 12 月 26 日,令和 2 年 9 月 23 日
今後の課題等	地方にある大学における教育研究環境の現状把握と課題について, 令和元年 12
	月に開催した公開シンポジウムにおいて話題提供をし、個人研究費に関するアン
	ケートを実施した。新型コロナウイルス感染症の拡大により、大学の研究や学生
	の育成の進め方も変わらなくてはならない。今後は、これらの対応についても議
	論を進める。

化学委員会 有機化学分科会							
委員長	中村栄一	副委員長	中西和嘉	幹事	澤村正也、		
XXX	1 412/6	H1222		TI 7	山口茂弘		
主な活動	審議内容						
	令和元年12	月26日に	開催された有機化学	分科会では,	博士取得者の学術・		
	社会での重要	性と日本に	おける課題について	議論し,博士	土取得者の社会での		
	活躍を調査し	た. 本テー	マは令和二年6月3	日に分子科学	学研究所所長招聘会		
	議「光り輝く	博士課程卒	業生」で取り上げられ	れ,国際的勧	観点や将来指針につ		
	いての発展し	いての発展した議論を行うことができた.					
	意思の表出(※見込み含む)						
	開催シンポジウム等						
開催状況	第24期・第5回(令和元年12月26日)						
今後の課題等	第24期(3年間)における成果として、有機化学分科会では、学術と社会						
	の発展に重要	であると考	えられる項目:化学	と AI・新有権	幾分子解析技術,世		
	界・アジアと	界・アジアとの競争と協調、国力・研究力維持向上のための博士課程進学、					
	について議論	を深めた.					

化学委員会 高级	分子化学分科会	₹			
委員長	吉江尚子	副委員長	上垣外 正己	幹事	岸村顕広、佐々木 園
主な活動	審議内容				

	今期は社会問題となっている海洋プラスチックについて重点的に議論した。
	澤本委員による講演、高原委員による The Chemical Sciences and Society Summit
	参加報告、岸村委員による World Science Forum の SDGs 関連セッション参加報
	告などで情報を共有するとともに、委員間で活発な意見交換を行った。この問題
	については様々な論点が複雑に絡んでいることから、本分科会として今期中
	の意思表出は見送ることとしたが、同時に、継続した議論が重要であるとの
	認識で一致した。大型施設計画・大規模研究計画に関する議論を通じて、今、
	高分子化学で取り上げるべき課題などについても議論した。
	意思の表出(※見込み含む)
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和元年 12 月 26 日
今後の課題等	海洋プラスチック問題について引き続き注視していく

化学委員会 材	料化学分科会				
委員長	関根千津	副委員長	小林昭子	幹事	伊藤耕三、寺西利 治
主な活動	審議内容				
	社会情勢の変	化や国内産	業内での位置づけを	念頭におき、	材料化学の現状と
	アカデミアと	しての進む	べき方向性を検討す	べく会議を関	開催し、最新の研究
	トピックスの	話題提供を	行いながら議論をし	た。	
	意思の表出(※見込み含	te)		
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回 2019	年 12 月 26	日		
	第2回 2020	年9月頃	(メールによる情報共	共有)	
今後の課題等	化学全般にお	いても重要	度が高く、材料化学の	分野で取り約	且むべきこと。

化学委員会 分標	折化学分科会				
委員長	一村信吾	副委員長	谷口 功	幹事	竹内孝江、佐藤 縁
主な活動	審議内容				

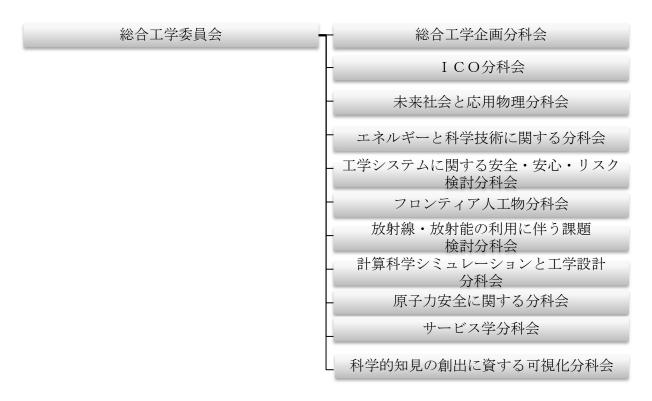
	第 24 期 1~2 年目で、学術の大型研究計画を議論し「最先端計測分析技術開
	発及び共同運用プラットフォーム」を提案。3年目は、2020(令和2)年9月
	実施の公開シンポジウムの報告とアンケート審議、「活動の記録」の準備作業
	について審議(第8回分科会)。「活動の記録」を承認(第9回メール審議)。
	2020 年 11 月開催予定の公開シンポジウムの企画案を審議・プログラム確定
	(第 10 回及び第 11 回分科会)
	意思の表出(※見込み含む)
	「第24期化学委員会分析化学分科会活動記録」を2020年5月28日に公表
	開催シンポジウム等
	「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォームの構築」を主題と
	して開催
	第1回「副題:これまでの取り組みと今後の展望」(2018年9月6日、幕張
	メッセ)
	第2回「副題:どんな基盤をつくり何を目指すか」(2019年9月4日、幕張
	メッセ)
開催状況	第24期は合計11回開催。3年目の開催実績は、第8回分科会開催(2019(令
	和元)年11月16日)、第9回メール会議(2020(令和2)年3月11日)、第
	10 回分科会 web 開催 (2020 年 6 月 25 日)、第 11 回分科会 web 開催 (2020 年
	8月26日)
今後の課題等	2020 年 11 月に学術フォーラム「コロナとの共生の時代における分析化学の
	果たす役割」を開催。計測分析技術を取り巻く大きな変革(ビッグデータ、
	AI 技術等)に対応した活動の計画

物理学委員会・化学委員会合同 結晶学分科会						
委員長	菅原洋子	副委員長	_	幹事	上村みどり	
主な活動	審議内容					
	令和元年度においては、日本結晶学会 70 周年年会にリンクしたシンポジウ					
	ム「結晶の近未来(仮題)」(令和2年11月開催予定)の共催へ向けて準備を					
	進めていたが、COVID-19感染拡大を受けて1年間開催が繰り延べとなった。					
	これに代わり、コロナウイルス撲滅のための創薬、製薬、医療機器開発にお					
	いて結晶学が果たしている役割、「新しい生活様式」の確立に向けて結晶学が					
	どのような貢献をなしうるかを議論する WEB シンポジウム「COVID-19 パ					
	ンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」(令和2年 11 月					
	開催予定)を企画し準備をすすめている。 意思の表出(※見込み含む)					
	なし					

	開催シンポジウム等					
	WEB シンポジウム「COVID-19 パンデミックを契機として考える日本の結					
	晶学の現状と今後」(令和2年11月29日開催予定)企画申請中(化学委員					
	会・物理学委員会化学委員会合同結晶学分科会・化学委員会 IUCr 分科会主					
	催、日本結晶学会共催)					
開催状況	令和元年 12 月 26 日、令和 2 年 6 月 12 日					
人从の細膜体						
今後の課題等	本年 11 月、来年 11 月に主催および共催予定の上記の 2 つのシンポジウムを					
	ふまえて、意見の表出を第 25 期に行うことを課題とする。					

化学委員会 生体関連化学分科会						
委員長	渡辺芳人 (H29.12.31~R1.12. 31) 成田吉徳 (R2.1.1~R2.9.30)	副委員長	成田吉徳 (H29.12.31~R1.12.31) 渡辺芳人 (R2.1.1~R2.9.30)			
主な活動	審議内容					
	第25期会員等候補の推薦について協議生体関連化学領域における最近の展開とそれへの対応状況科学研究力低下の原因と今後の増強に向けての方策についての討議					
	意思の表出(※見込み含む)					
	なし					
	開催シンポジウム等					
	なし					
開催状況	令和1年12月26日					
今後の課題等	本分野の急速な変化に対応すべく、今後の学術動向に関して日本化学会部会					
	と共同して研究者の意向調査や振興に関する協議を進めてきた。また、日本					
	学術会議の関連委員会と連携して当該分野のマスタープラン(案)作成を進					
	める。					

26総合工学委員会



総合工学委員会					
委員長	吉村忍	副委員長	大倉典子	幹事	小山田耕二・所千 晴
主な活動	審議内容				
	総合工学委員	会では、総	合工学委員会及び関	連する分科会	会、小委員会、シン
	ポジウム等に	関する事項	を審議・決定すると	ともに、委員	員会が関わる諸活動
	を推進する。	さらには、	学協会等科学者コミ	ユニティと(の連携活動のあり方
	の検討などを	含め、細分	化された工学分野を	複眼的・学	祭的に統合する役割
	を担う総合工	学の位置づ	けや統合化への取り	組み等を審認	議し、活動に反映さ
	せる。この活	動において、	23期に作成した携	書言「社会課	題に立ち向かう『総
	合工学』の強	化推進」の社	上会への具体的な展開	引について検	討を行うとともに、
	23期に審議	しきれなか	った新規分野に関す	る検討も行っ	った。117名の委
	員全員が出席	する総合工	学委員会の全体会議	を、年1回	開催した。また、2
	4期の3年間	に、総合工	学委員会全体として	は、関連する	る16の分科会も含
	めて、提言を	10件、報告	告を6件、記録を1件	#まとめ、「	学術の動向」の特集
	を7件企画し	た。			
	意思の表出(※見込み含	む)		

	23期に作成した提言の社会への具体的な展開や新規分野に関する審議、日
	本学術会議における SDGs 関連活動の俯瞰的可視化に関する審議、関連する
	16分科会の活動の概要をまとめた、記録を取りまとめ、令和2年7月末に
	公開した。
	開催シンポジウム等
	令和2年3月12日に、公開シンポジウム「総合工学シンポジウム2020―文
	理の協創によって社会的課題に立ち向かう―」を開催する予定であったが、
	新型コロナウィルス感染防止の観点から直前になって中止した。その企画を
	元に、「学術の動向」に特集「文理の協創によって社会的課題に立ち向かう総
	合工学」を企画し、2020年7月号に発刊された。
開催状況	第1回を平成29年10月4日に会員のみで開催し、第2回を平成30年6
	月1日に開催した。第3回を令和元年10月18日、第4回は令和2年5月
	にメール審議、第5回を令和2年7月31日に開催した。
今後の課題等	25期への申し送り事項のとりまとめ。たとえば、中止となった公開シンポ
	ジウム開催の検討、他分野とのより一層の交流、総合工学の研究分野として
	の体系の検討や参照基準の検討、ウィズコロナ・ポストコロナや災害等に対
	する総合工学アプローチの具体的検討など。

総合工学委員会	総合工学企画	総合工学企画分科会				
委員長	吉村忍	副委員長	大倉典子	幹事	小山田耕二・所千時	
エンド型	京 港上点				H月	
主な活動 	審議内容					
	総合工学委員	会の運営及	び活動を円滑かつ積	極的に進める	るために、会員及び	
	総合工学委員	会に所属す	る分科会代表者等か	らなる「総合	合工学企画分科会」	
	を設置し活動	を行った。	23期に作成した提	言「社会課題	題に立ち向かう 『総	
	合工学』の強	化推進」の	社会への具体的な展	開及び、2	3期に議論しきれな	
	かった新規分	野について	検討、公開シンポジ	ウムの企画、	記録のとりまとめ	
	などを行った。 意思の表出 (※見込み含む) 23期に作成した提言の社会への具体的な展開や新規分野に関する審議、日					
	本学術会議における SDGs 関連活動の俯瞰的可視化に関する審議、関連する					
	16分科会の	活動の概要	をまとめた、記録を	取りまとめ、	令和2年7月末に	
	公開した。					
	開催シンポジ	開催シンポジウム等				
	令和2年3月	12 日に、2	公開シンポジウム「約	総合工学シン	⁄ポジウム 2020─文	
	理の協創によ	って社会的	課題に立ち向かう―	」を開催す	る予定であったが、	
	新型コロナウ	ィルス感染	防止の観点から直前	になって中」	止した。その企画を	
	元に、「学術の	動向」に特	集「文理の協創によ	って社会的	課題に立ち向かう総	

	合工学」を企画し、2020年7月号に発刊された。
開催状況	第1回:平成30年1月25日、第2回:平成30年9月14日、第3回:
	同年12月26日、第4回:令和元年7月19日、第5回:令和2年3月1
	2日、第6回:同年7月31日、に開催した。
今後の課題等	25期への申し送り事項のとりまとめ。

総合工学委員会	ICO 分科会					
委員長	荒川 泰彦	副委員長	五神 真	幹事	馬場 俊彦、	松尾 由賀利
主な活動	審議内容					
	・国際対応の	分科会とし	て、日本の光科	学技術分野	予からの貢献?	を議論した。
	・国内におい	ては、光科	学技術調査企画	小委員会と	協力して国際	際光デー関連
	シンポジウム	を企画し、	今後の国際光デ	一記念行事	事の実施方針!	について検討
	した。					
	・我が国の光	科学技術コ	ミュニティーの	活性化につ	ついて検討した	た。
	意思の表出(※見込み含	む)			
	なし 開催シンポジウム等					
	なし(令和2	年6月16日	に開催を予定し	たがコロ	ナにより来年	度へ延期)
開催状況	令和2年1月	30 日に第5	回分科会委員会	₹、令和2	年9月15日	に第6回分科
	会委員会(予	定)を開催。)			
今後の課題等	今年の国際光	デーシンポ	ジウムはコロナ	により延期	男となったが、	来年以降も、
	国際光デー記	念行事を定	期的に開催し、	我が国の光	光科学技術コ	ミュニティー
	の一層の活性	化と社会へ	の啓発を図ってい	いく。		

総合工学委員会	未来社会と応用物理分科会						
委員長	松尾 由賀	副委員長	中野 義昭	幹事	伊藤 公平、為近 恵美		
主な活動	審議内容	審議内容					
	応用物理学分野の研究開発のあり方の検討、未来社会へ向けた施策について						
	提言 WG を中心に議論を進め、未来の新産業創出のためには(1)評価にかかる						
	時間的コストの低減、(2)多様な研究人材の支援、(3)産学連携における人材						
	交流および地域との連携によるイノベーションエコシステム構築、が必要で						
	あることを柱とする提言をまとめた。						
	意思の表出(※見込み含	た)				

	提言「日本の停滞を打破し新産業創出を促す社会基盤と研究強化~応用物理 からの提言~」(令和2年6月16日)を公表
	開催シンポジウム等
	該当なし
開催状況	第5回分科会委員会(令和2年1月30日~2月10日、メール)、第6回分科
	会員会(令和2年8月3日)を開催。
今後の課題等	今後さらに公開シンポジウム等を通じて提言内容を社会に発信し、応用物理
	分野の研究を社会に還元、実装していく方策をより具体化することが重要で
	ある。

総合工学委員会	エネルギーと	科学技術に	関する分科会			
委員長	鈴置保雄	副委員長	山地憲治	幹事	秋元圭吾、疇地宏	
主な活動	審議内容					
	多岐にわたる	エネルギー	と科学技術に関する	検討課題の	うち、主に地球温暖	
	化対応の視点	からのエネ	ルギー対策・政策検	討、次世代科	再生可能エネルギー	
	導入検討、熱	エネルギー	利用の社会実装基盤	、ハイパワー	ーレーザーによる高	
	エネルギー密	度科学に関	して小委員会を立ち	上げ、審議を	を行なった。	
	意思の表出(※見込み含	む)			
	今期の活動の結果、2件の提言「長期の温室効果ガス大幅排出削減に向けた					
	イノベーショ	イノベーションの加速」、「パワーレーザー技術と高エネルギー密度科学の量				
	子的飛躍と産業創成」を公表した。 開催シンポジウム等 令和元年11月7日に、公開シンポジウム「再生可能エネルギー導入の次段階					
	に向けて」を	開催した。				
開催状況	分科会(令和	元年 12 月 2	7 日)			
	メール審議1	回(意見交	換 8/21-29・審議 9/3	3-6)		
今後の課題等	次期も分科会	を継続し、	上記の課題について	審議を発展る	させるとともに、社	
	会への情報発	信等につい	て検討する。			

総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会					
委員長	須田義大	副委員長	野口和彦	幹事	水野毅、宮崎恵子
主な活動	審議内容				
	・安全目標の検討小委員会、老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評				
	価とリスク	管理に関す	る検討小委員会、エ	学システムに	こ対する安心感等検
	討小委員会	にて審議を	深めた。		

	・分科会では、電力ブラックアウト及び大学の安全教育に関する話題提供と
	審議を行った。
	・オンラインにて公開シンポジウムを2件開催した。
	・今季終了に際して、第23期及び今期の成果を踏まえ、提言を1件、報告を
	2 件表出することができ、実りのある活動となった。
	意思の表出(※見込み含む)
	令和2年8月28日提言「工学システムの社会安全目標の新体系」
	令和元年 9 月 20 日報告「老朽・遺棄化学兵器廃棄の安全と環境の保全に向
	けて」
	令和2年8月25日報告「工学システムに対する安心感と社会」
	開催シンポジウム等
	令和2年5月28日公開シンポジウム「安心感等検討シンポジウムー「安心
	感」とは?-」(オンライン開催)
	令和2年7月1日公開シンポジウム「安全工学シンポジウム 2020 レジリエ
	ントな社会を実現する安心・安全」(オンライン開催)
開催状況	分科会3回(令和元年10月18日、令和2年1月21日)及びメール審議、
今後の課題等	今期の提言及び報告に基づき、さらに安全・安心・リスクの体系化の審議を

深める。

総合工学委員会	・機械工学委員	会合同 フ	ロンティア人工物分	科会	
委員長	大和 裕幸	副委員長	鈴木 真二	幹事	伊藤 恵理
主な活動	審議内容				
	分科会とフ	ロンティア	人工物企画小委員会	が合同で、治	毎洋及び宇宙観測・
	探査・開発	の各技術を	包含し、全地球的及	び地球外への	の輸送システムとし
	ての航空宇	宙・船舶海	洋技術である「フロ	ンティア人	工物科学技術」を審
	議した。				
	・シンポジウム開催、マスタープラン審議等を行った。				
	・今期終了に際して、平成23年及び29年に表出した提言を踏まえて、フロ				
	ンティア人工物科学技術の高度化、産業基盤の強化、人材育成を主対象に、				
	対面会議に加えて、拡大幹事会が中心となりメールやウエブも用いて審議				
	を深めた。 ・新たな提言を表出することができ、実りのある活動となった。				
	意思の表出(※見込み含	む)		
	令和2年8月	提言「人類	の未来を開くフロン	ティア人工特	物工学の展開のため
	に」				
	開催シンポジ	ウム等			

	令和元年 11 月 29 日公開シンポジウム「宇宙・空・海 - フロンティア人工 物科学シンポジウム」
開催状況	分科会及び小委員会2回(令和元年11月29日、令和2年2月13日)
今後の課題等	今期の提言に基づき、総合科学技術・イノベーション会議との議論を進める
	とともに、次期海洋基本計画・宇宙基本計画等への反映を図っていく。

基礎医学委員会	基礎医学委員会・総合工学委員会合同 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会						
委員長	柴田德思	副委員長	遠藤啓吾	幹事	中嶋英雄、多湖正		
	米 田 心心				夫		
主な活動	審議内容						
	ワーキング	゙゙゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゙゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙	立ち上げ、24 期の活	動内容を検	討した。核医学の分		
	野で喫緊の課	題は、1)	放射線医薬品のクリ	アランスの	考え方の整理、2)		
	Mo-99 の安定	K供給である	。Mo-99 の安定供給及	及び新たなか	対射性医薬品用の RI		
	の製造は、加	速器による	製造が不可欠であり、	、加速器施設	設を擁する総合拠点		
	が必要である	ので、大型	計画の検討を行うこ	とを分科会に	こ諮った。分科会で		
	の審議の結果	:、25 期を目	指して核医学分野の	大型計画の打	是案について検討す		
	ることとした	•0					
	意思の表出(※見込み含	t)				
	なし						
	開催シンポジ	ウム等					
	なし						
開催状況	分科会:平成	30年3月1	2日、平成30年8月	24 日、令和	和元年 9 月 13 日		
	ワーキンググ	ループ:平	成30年11月1日、	平成 30 年 1	1月6日、令和元年		
	6月19日						
今後の課題等	核医学分野の	研究者、当	分科会の委員、放医の	研の研究者に	こよる検討が必要。		

総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会									
委員長	越塚誠一	副委員長	吉村忍	幹事	金田千穂子・松尾亜紀				
344	ACE-SK BA	m x X X	H 1 1 10	TI 3"	子				
主な活動	審議内容	審議内容							
	・本分科会は	・本分科会は、第4回会合をメール審議として令和元年10月4-7日に、第5							
	回会合を令和	回会合を令和元年 12 月 11 日に、第 6 回会合をメール審議として令和 2 年 7							
	月 21-27 日に	月 21-27 日に開催した。							
	・本分科会よ	・本分科会より提案した「ソサエティ 5.0 を支える人と人工物システム・サ							
	ービスの計算	ービスの計算情報科学基盤創成」が、第 24 期の学術大型研究計画として選定							
	された。								

・「計算力学小委員会」は、第4,5回会合が令和元年12月11日および令和の年5月01日は12日
2年5月21日に開催された。
・「心と脳など新しい領域検討小委員会」は、第9, 10回会合が令和元年12
月23日および令和2年7月9日に開催された。第11回会合が令和2年9月
15日に開催される。
・「計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会」は、第8~10回会
合が令和元年 10 月 7 日、11 月 26 日、および令和 2 年 2 月 7 日に開催され
た。
意思の表出(※見込み含む)
開催シンポジウム等
・第9回計算力学シンポジウム(令和元年12月11日、日本学術会議講堂)
・公開シンポジウム「計算科学基盤強化に向けた国産ソフトウェアの実用化
の課題と期待―国プロ開発ソフトウェアの実用化・事業化における現実―」
(令和2年2月7日、日本学術会議講堂)
・公開シンポジウム「こころ・からだ・細胞を運動でつなぐアプローチ」(令
和2年9月15日、オンライン)
本期間に、分科会会合はメール審議を含めて3回開催された。小委員会会合
は、「計算力学小委員会」は2回、「心と脳など新しい領域検討小委員会」
ᄁᇬᄆᆝᆁᄷᄭᆇᇎᅷᄤᆡᅩᅔᆇᄴᅘᄼᆛᅺᄱᇬᅛᆁᆝᆂᄆᄾᆞᄁᇬᄆᄜ
は3回、「計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会」は3回、開
は3回、「計算科学を基盤とした産業競争刀強化の検討小会員会」は3回、開催された。

総合工学委員会	原子力安全に	原子力安全に関する分科会						
委員長	矢川 元基	副委員長	柘植 綾夫	幹事	越塚 誠一、			
	八川 儿盔		701但		野口 和彦			
主な活動	審議内容							
	東京電力福島	· 第一原子力	発電所において発生	した事故事績	象の検討をおこなっ			
	た。特に津波	た。特に津波についての学術的課題について審議した。また、我が国の研究						
	用原子炉の在	用原子炉の在り方、原子力規制の課題とあるべき姿、新知見の扱い等につい						
	て議論した。							
	意思の表出	(※見込み含	む)					
	・提言「研究と産業に不可欠な中性子の供給と研究用原子炉の在り方」、平成							
	30. 8. 16							
	・報告「我か	国の原子力	発電所の津波対策<	東京電力福息	島第一発電所事故前			

	の津波対応から得られた課題>」、令和元年5月21日、令和元年5月21日の
	NHK ニュースで紹介
	・提言「原子力規制の課題とあるべき姿」、令和2年6月30日、令和2年7
	月7日NHK朝のニュースで紹介
	・報告「東電福島第一原発事故による環境汚染の調査研究の進展と課題」、令
	和2年7月7日
	をとりまとめた。
	開催シンポジウム等
	・原子力総合シンポジウム、平成 30.10.22、
	・原子力総合シンポジウム、令和元年 12.2、
	・新知見に関するシンポジウム、令和2年9.10、
	・原子力総合シンポジウム、令和2年9.21
	を開催した。
開催状況	平成29年12月21日、平成30年3月15日メール、平成30年4月24日、
	平成30年7月9日メール、平成30年9月4日、平成30年10月22日、
	平成31年4月11日、令和元年7月24日、令和元年12月2日、
	令和2年6月8日にそれぞれ分科会を開催した。
今後の課題等	これまで福島事故について多くの時間を割いて審議を行った。今後もこのテ
	ーマの重要性に鑑み審議し内容を公開する予定である。

経営学委員会・総	総合工学委員	会合同 サー1	ビス学分科会					
委員長	西尾 チヅ	ル 副委員長	新 誠一	幹事	戸谷	圭子・平	卢田	貞代
主な活動	審議内容							
	本分科会は	2つの小委員会	会活動を通じて	、サービス	ス化する	5社会の中	中で、	市民
	も含めた個	人が主体的に流	5躍するために	涵養すべき	きサーヒ	ごス学の鍛	建概念	か考
	え方を整理	すると共に、2	3期に策定した	:「サービ	ス学の参	≽照基準」	を沿	5用し
	て、サービ	ス学を体系的に	こ教育するため	の実装方法	去を審議	養した。		
	意思の表出	(※見込み含む	(s)					
	成果を提言	「サステナブバ	レで個人が主体	的に活躍で	できる社	上会を構築	をする	らサー
	ビス学」に	まとめ、所定の)査読審査を経	て、令和2	2年7月	月7日に2	込表し	た。
	開催シンポジウム等							
	提言内容を	紹介し、高等教	対育機関におけ	るサービス	ス学の教	女育実装の	つ方法	を広
	く議論する	ことを目的とす	ト るシンポジウ	ムを令和 2	2年3	月 12 日に	こ開催	置する
	予定であっ	たが、新型コロ	ュナウィルス感	染防止の観	見点から	中止した	-0	
開催状況	今期は分科	会を2回(令和	元年 10 月 18 日	日、同 12 月	月 19 日	はメール	審議	開催
	した。							
今後の課題等	中止した公	開シンポジウ4	ムをオンライン	を用いて関	昇催する) _o		

総合工学委員会	科学的知見創	出に資する	可視化分科会						
委員長	小山田耕二	副委員長	萩原一郎	幹事	大倉典子・明和政 子				
主な活動	審議内容								
	本分科会活動	本分科会活動は、計算科学シミュレーションと工学設計分科会の小委員会か							
	らスタートし	たが、今期で	から分科会という形	で、第 23 期	別に発出した提言「科				
	学的知見の創	出に資する	可視化に向けて」の	うち三つの	論点(研究コミュニ				
	ティ、研究の	指標、教育	への貢献)を立てて	、これらを	審議した。				
	意思の表出(※見込み含	む)						
	上記3つの論	点に関する	審議の結果をまとめ	、「科学的知	見の創出に資する可				
	視化—文理融	合研究と新	パラダイム策定―」。	と題する報行	告を作成し、第24期				
	に発出予定で	ある。							
	開催シンポジ	ウム等							
	「科学的知見	の創出に資	する可視化」と題す	る公開シン	ポジウムを計 4 回開				
	催した。特に	、第1回の	シンポジウムにおけ	る講演・パ	ネル討論の内容を踏				
	まえて、「学行	ドの動向」 に	おいて、特集「科学	的知見の創	削出に資する可視化」				
	を刊行した。								
開催状況	本分科会は、	第1回、平	成30年5月24日、	第2回、平	成 30 年 12 月 15 日、				
	第3回 (メー	ル審議)、平	成31年3月19日~	-22 日、第	4回 (メール審議)、				
	令和元年4月	17 日~20 月	日、第5回、令和元年	F7月13日	、第6回、令和元年				
	12月15日、第	第7回、令和	口2年7月4日に開作	置した。また	と、ICT 時代の文理融				
	合研究を創出	する可視化	小委員会は、第1回、	平成 30 年	9月27日、第2回、				
	令和元年 12	月 15 日に開	催した。さらに、可	視化の新パ	ラダイム策定小委員				
	会は、第1回	、平成 30 年	三10月31日、第2回	1、令和2年	F4月6日、第3回、				
	令和2年7月	4日に開催	した。						
今後の課題等	25 期への申し	送り事項の	とりまとめ。						

②機械工学委員会

機械工学委員会	T UTAM分科会
	- 生產科学分科会
	- ロボット学分科会
	- 力学基盤工学分科会
	- 機械工学企画分科会
	- 生体医工学分科会
	機械工学の将来展望分科会

機械工学委員会	:							
委員長	藤井孝藏	副委員長	厨川常元	幹事	淺間一	菱田公一		
主な活動	審議内容							
	24期におけ	る機械工学関	連分野の重点的課題	こついて継続	売して議論を	を進めてい		
	る。機械工学の)現状と将来	展望に関する提言の発	色出が今期の	目標であっ	たが、予		
	定していた合物	口2年3月10)日の委員会開催が延	期となった。	こともあり	、今期は議		
	論結果を担当の	の機械工学の	将来展望分科会の「記	品録」として	残し, 9月	8日に予定		
	している機械	Ľ学委員会で	の議論を受けて、次其	別早いタイミ	ングでの	「提言」発		
	出を目指すこ	とにした。						
	意思の表出(※見込み含	ts)					
	委員会として	の意思の表	出はなし. 所属分科	会からいく	つかあり。			
	開催シンポジ	ウム等						
	令和元年10月	23 日~25 日	日 JCOSSAR2019(樟	毒造物の安全	性・信頼性	に関する		
	国内シンポジリ	ウム)						
	令和元年11月	29 日 宇宙	・空・海ー フロンティ	ィア人工物科	学シンポシ	ジウム(総		
	合工学・機械工	C学委員会合	司)					
	令和元年12月	9日第5回	理論応用力学シンポミ	ジウム~力学	と新学術の	融合Ⅱ		
	(機械工学・総合工学委員会合同)							
	令和元年12月	11日第9回	引計算力学シンポジウ	ム(総合工学	学・機械工	学委員会合		
	同)							
			学基盤強化に向けた国	産ソフトウェ	ェア実用化	の課題と期		
	待(総合工学							
	令和2年7月1日~2日日安全工学シンポジウム2020(機械工学・総合工学委員会合							
	同)							
開催状況		. , , . ,	は開催できなかった。					
	令和2年3月	10 日の開催	を予定したが、新型コ	ロナウィル	スにより延	期。		

	令和2年9月8日の開催(WEB会議)を予定している。
今後の課題等	今期、機械系学協会との連携を高めること、機械工学委員会全体としてのメッセ
	ージを発出することを目指した. マスタープランについては予定通り関連学会と
	連携して提案を行った。委員会からの意見発出は、2019年度は予算の制限、2020
	年度にかけては新型コロナ感染症の影響で今期内の発出は困難となった。

機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会									
委員長	菱田 公一	副委員長	金田 行雄	幹事	前川 宏一・亀田 正治				
主な活動	審議内容								
	国際理論応用	力学連合((IUTAM) への対	讨応、理語	倫応用力学講演会に関する				
	進め方を議論・	検討。							
	・IUTAM への	対応:2020	/21 年度 IUTAN	M シンポ	ジウムの提案(2件)取り				
	まとめ、2020年	下コングレン	ス(ICTAM,開	催地: ミ	ラノ)の特別講演,セッシ				
	ョン座長候補	i者の選出	方針の決定、	2018 年	三改選 IUTAM Congress				
	Committee ×	Committee メンバー候補者の選出方針の決定、2024 年 ICTAM を東京招致							
	に向けた準備、	を行った。							
	・理論応用力学	講演会に関	する進め方:理	論応用力	学企画小委員会を設置し、				
	今後の開催方針	トを議論した	- 0						
	意思の表出(※	見込み含む	?)						
	特になし								
	開催シンポジウ	/ム等							
	なし								
開催状況	平成 30 年 1 月	23 日(第 24	期 第1回)、	平成 30	年3月5日(第2回,力学				
	基盤工学分科会	との併催)、	平成 29 年 5 丿	月 28 日 (第3回,理論応用力学企画				
	小委員会との併	催)、平成 3	0年8月31日(第4回,	予定)				
今後の課題等	ICTAM 招致の母(本となる学協	協会コンソーシア	ムの設置	1, 資金管理方法の明確化				

機械工学委員会	生産科学分科会							
委員長	厨川常元	副委員長	光石	衛	幹事	新野秀憲		
主な活動	審議内容	審議内容						
	ピコテクノロ	ピコテクノロジー基盤ものづくりの動向調査と方向性の取纏め、並びに高付						
	加価値製造技	加価値製造技術研究をはじめとする 21 世紀生産科学をグローバルな視点からの体系化に関して検討した。それらをまとめた「ピコテクノロジー基盤ものづくりエコシステム拠点」が、マスタープラン 2020 として採択された。						
	らの体系化に							
	のづくりエコ							
	意思の表出(※見込み含	む)					

	機械工学委員会において記録としてまとめた「機械工学が切り拓く Inclusive
	Society」のなかに、生産科学分科会担当分として「ピコテクノロジー基盤高
	付加価値ものづくり」として分担執筆した。
	開催シンポジウム等
	該当なし
開催状況	第5回 令和2年1月27日
	第6回 令和2年9月WEB開催予定
	 次世代のものづくり技術に関して、関連省庁、国内外関連学協会並びに産業
	界との連携しながら協議していくことが不可欠。

機械工学委員会	ロボット学分	科会					
委員長	川村貞夫	副委員長	金子 真	幹事	荒木稚子		
主な活動	審議内容						
	ロボット学と	その利用の	あるべき姿を学界、	産業界,教育	育界の視点で議論し		
	た.						
	意思の表出(※見込み含	む)				
		期機械工学	造のためのロボット 委員会ロボット学分		· · · · · · · · · -		
	開催シンポジ	開催シンポジウム等					
開催状況	2019年10月	8日第4回分	分科会開催を開催し、	提言および	が記録のメイル審議		
	は						
	2019年12月	26 日~2020	年1月10日 意見	交換及び議院	央期間に実施した.		
今後の課題等	ロボットに対	する社会的	ニーズ,利用可能技	術進展,社会	会的理解などが多様		
	に急速に変化	する状況が	あり、提言や記録に	より分科会。	として意思を表出し		
	た. 今後も,	様々な変化	が予想されるので,	ロボット学	分科会として議論を		
	継続したい.						

総合工学委員会・機械工学委員会合同 力学基盤工学分科会						
委員長	岸本喜久雄	副委員長	高田 保之	幹事	松尾亜紀子	
	产平普 久雄		同山 休之		荒木 稚子	
主な活動	審議内容	審議内容				
	力学を基盤	力学を基盤とする工学・技術が多岐に亘って発展を続けているなか				
	で、次世代	を担う人材	の活躍の場を形成	えすること	が喫緊の課題であ	
	るとの認識	から、力学	の深化・展開小委	員会を設け	置して、会員、連	

	携会員以外の若手研究者をメンバーに加えて活動を進めた。力学分野の活性化のための方策について審議・検討を行い、シンポジウムの開催やマスタープランの策定を行った。							
	意思の表出(※見込み含む)							
	なし							
	開催シンポジウム等							
	・第5回理論応用力学シンポジウムの開催(令和元年12月9日)							
	・第6回理論応用力学シンポジウムの開催(令和2年9月1日~3日)							
開催状況	1回開催(令和元年12月9日)力学の深化・展開小委員会と合同開催							
今後の課題等	・力学を基盤とする工学の深化・展開に関する情報交換の場の活性化(理論応							
	用力学シンポジウムの継続開催、日本工学会理論応用力学コンソーシアムと							
	の連携)							
	・関連する工学分野の体系化ならびに分野の強化・発展を促すための方策(マ							
	スタープランの改定、実行策など)							

機械工学委員会	機械工学企	画分科会			
委員長	藤井孝藏	副委員長	厨川常元	幹事	淺間一 菱田公一
主な活動	審議内容				
	本分科会は	、機械工学	の学術分野を俯瞰し	つつ、機械	工学委員会及び関連
	する分科会、	シンポジウ	ムなどの企画行事な	どに関する	事項を審議、決定す
	ると共に、委	員会および	所属分科会が関わる	諸活動を推済	進する。今期は、マ
	スタープラン	のその後、	委員会としての提言	準備、委員会	会予算執行計画など
	を議論した。	次期への引	き継ぎは第7回で議	論を予定して	ている。
	意思の表出(※見込み含む	to)		
	特になし.				
	開催シンポジ	ウム等			
	特になし.				
 開催状況	第5回(令和	元年 10 月 1	7 日), 第6回 (メ-		3和2年4月28日-
			:ウェブ会議,令和 2		
人公の細胞性					
今後の課題等					

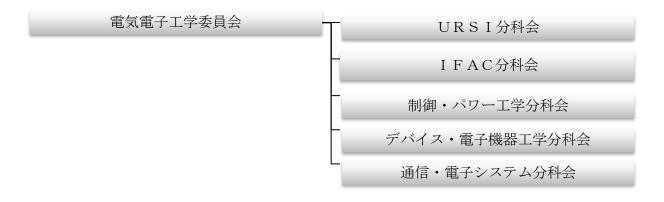
機械工学委員会	生体医	生体医工学分科会					
委員長	伹野	茂	副委員長	厨川	常元	幹事	和田 成生

					田中 真美	
主な活動	審議内容					
	我が国の生体医	工学分野	に関する現状と課題,	今後の振興	異策について、討論、	
	意見交換を実施した。医学と工学の学術界の連携と産業界の連携、ならびに					
	そのための人材	育成をテ	ーマとしたシンポジ	ウムを企画	し、年度内に実施す	
	ることとした。	また、医	工連携の研究に関係	する臨床研究	究法の問題点につい	
	て、今後の分科	会で取り	上げていくこととした	た。		
	意思の表出(※見込み含む)					
	1. 国内外関連学会等の動向、情報交換、連携促進の方策					
	2. 生体医工学の教育・研究体制の現状と課題					
	3. 研究開発から実用化に至る過程での検討事項					
	開催シンポジウム等					
	該当なし					
┃開催状況 ┃	第 1 回分科会: ⁻ 	平成30年	3月27日			
	第2回分科会:	平成31年	6月4日			
今後の課題等	生体医工学は医	学と工学	の分野横断的な学術	分野のため、	国内外関連学協会	
	の連携と相互協	力が課題	である。			

機械工学委員会	機械工学の将	機械工学の将来展望分科会					
委員長	大島まり	副委員長	菱田公一	幹事	塩見淳一郎		
主な活動	審議内容						
	・本部会は、貧	第3回会合る	令和元年12月24	日に開催し	、と第4回会合(メ		
	ール審議)令	和2年6月	16日 (火) —6月23	3 目 (火) に	こ行った。		
	• 学協会連携	小委員会は	会合を開催しなかって	たが、記録の	のとりまとめに際し		
	て、執筆など	の協力をい	ただいた。				
	本部会での	・本部会での会合を通して、記録「機械工学を切り拓く Inclusive Society」					
	をとりまとめた。						
	意思の表出(※見込み含む)						
	記録「機械工学を切り拓く Inclusive Society」						
	開催シンポジウム等						
	令和元年4月16日 公開シンポジウム						
	「機械工学	の将来展望	一 イノベーションか	割出にむけた	た次の一手」		
開催状況	第2回分科	会 令和元	年4月16日				
	シンポジウ	ム「機械工	学の将来展望 一イ	ノベーション	ン創出にむけた次の		
	一手」						

	との合同開催
	・第3回分科会 令和元年12月24日
	記録案「機械工学を切り拓く Inclusive Society」の取りまとめ
	・第4回分科会 令和2年6月16日(火)―6月23日(火) メール審議
	記録案「機械工学を切り拓く Inclusive Society」承認
今後の課題等	とりまとめた「機械工学を切り拓く Inclusive Society」を基盤に、シンポジ
	ウムの開催を企画するとともに、提言のとりまとめを行う予定である。

28電気電子工学委員会



電気電子工学委	電気電子工学委員会						
委員長	大西 公平	副委員長	波多野 睦子	幹事	中野 義昭		
主な活動	審議内容						
	・今期の活動	及び意志の	表出方法について意	見交換を行い	い、学協会連携や学		
	術誌						
	のオープン	アクセス化	に関して議論を行った	た。			
	・来期の申し	送り事項に	ついて議論した。				
	意思の表出(※見込み含	む)				
	第24期の活動記録を作成し委員会で承認後に提出済						
	開催シンポジウム等						
	該当なし						
開催状況	第7回 令和2年2月19日 (対面形式)、第8回 令和2年7月3日 (メール						
	審議)、第9回	可令和2年	7月29日(ウェブ	形式)			
今後の課題等	・第24期で	は学協会と	の連携と電気電子工	学分野の国際	祭的な学術発信につ		
	いて						
	議論を重ねてきた。期中に行ったアンケート結果の分析からも示唆される						
	ように、今	ように、今後学協会との連携をさらに強める機会を作っていくこと、およ					
	び電気電子	工学委員会	がその支援をしてい	くことなどだ	が継続的な課題にな		
	ると考えら	れる。					

電気電子工学委員会 URSI 分科会					
委員長	八木谷 聡	副委員長		幹事	大貫 進一郎
主な活動	審議内容				

・2019(令和元)年 9 月に開催された「2019 年 URSI 日本電波科学会議」
(URSI-JRSM 2019) の準備・運営の支援について。
・2020 (令和 2) 年 8 月にイタリア・ローマで開催予定であった「第 33 回
URSI 総会」(URSI GASS 2020)への対応について。(第 33 回 URSI 総会
は、新型コロナ感染拡大のため 2021(令和 3)年 8 月に延期された。)
・2023(令和 5)年に札幌で開催予定の「第 34 回 URSI 総会」(URSI GASS
2023) の準備について。
意思の表出(※見込み含む)
なし。
開催シンポジウム等
なし。
令和2年3月31日に開催予定であったが、新型コロナ感染拡大のため延期。
令和2年9月に開催予定。
(3年間の取組の総括)
・2019(令和元)年 9 月に開催された「2019 年 URSI 日本電波科学会議」
(URSI-JRSM 2019) の準備・運営を支援。
・第 24 期学術の大型研究計画(マスタープラン 2020)へ「電磁波の科学的
利用と商業的利用の共存・共栄のためのレギュラトリーサイエンスセンター」
を申請し、採択。
・日本からの候補者(2 名)が URSI 学術賞を受賞(Balthasar van der Pol
Gold Medal:1名、The President's Award:1名)。
・URSI 本部により編纂中の URSI 100 周年記念誌に対応。
(今後の課題等)
・2021 (令和 3) 年 8 月にイタリア・ローマで開催予定の「第 33 回 URSI 総
会」(URSI GASS 2021) への対応について。
・URSI 100 周年記念シンポジウムの開催について。
・2023(令和 5)年に札幌で開催予定の「第 34 回 URSI 総会」(URSI GASS
2023) の準備について。

電気電子工学委員会・総合工学委員会合同 IFAC 分科会							
委員長	椹木哲夫	椹木哲夫 副委員長 藤崎泰正 幹事 水野毅					
主な活動	審議内容	審議内容					
	IFAC2023 C	IFAC2023 の開催準備を円滑に進めるべく, すでに提案している自動制御連					
	合協議会について関連学会との意見交換を含めて引き続き協議を行い、また						
	IFAC2023 Ø	周知のための	の企画行事を国内外で	で展開してい	いくことを確認.		

意思の表出(※見込み含む)

なし.

開催シンポジウム等

(日本学術会議後援) 第 60 回自動制御連合講演会, 2017 年 11 月 10 日~ 12 日,電気通信大学, IFAC 分科会企画『IFAC 2023 vision「わ」:「環」を以て「輪」を為し「和」を創る』

(日本学術会議 IFAC 分科会共催)制御工学教育研究集会, 2017年11月11日, 電気通信大学講堂

(日本学術会議 IFAC 分科会共催)国際ワークショップ 2018 JAPAN-KOREA CONTROL THEORY & TECHNOLOGY WORKSHOP, 2018 年 7月 $13\sim15$ 日,Incheon,Korea

(日本学術会議 IFAC 分科会共催) IFAC World Congress 2023 プレイベント, 2018 年 11 月 16 日, 名古屋大学

(日本学術会議後援) 第 61 回自動制御連合講演会, 2018 年 11 月 17~18 日, 南山大学名古屋キャンパス

(日本学術会議後援)第62回自動制御連合講演会,2019年11月8~10日,札幌コンベンションセンター

(日本学術会議 IFAC 分科会共催)制御工学教育研究集会, 2019年11月10日, 札幌コンベンションセンター

開催状況

2018年1月15日 第1回 IFAC 分科会(東京大学)

2018年5月9日 第1回 自動制御の多分野応用小委員会(東京工業大学) 2018年11月17日第2回 自動制御の多分野応用小委員会(南山大学) 2019年1月22日第2回IFAC 分科会(東京大学)

2019年5月7日 第3回 自動制御の多分野応用小委員会(東京工業大学) 2019年11月9日 第4回 自動制御の多分野応用小委員会(札幌コンベンションセンター)

2020年1月27日 第3回 IFAC 分科会(東京大学)

2020年5月25日 第4回 自動制御の多分野応用小委員会(遠隔会議, 埼玉大学)

2020年6月3~8日 第4回 IFAC 分科会 (メール審議)

今後の課題等

今期は IFAC2023 の開催に向けて,国内外の関連学会への開催周知と組織体制を構築した.今後は開催に向けた準備を円滑に進めるべく,2020年5月に設立した一般社団法人自動制御連合協議会とともに関連学会との意見交換を含めて引き続き協議を行い,IFAC2023 の周知のための企画行事を国内外で展開していく.

電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会						
委員長	日髙邦彦	副委員長	大西公平	幹事	金子 真	

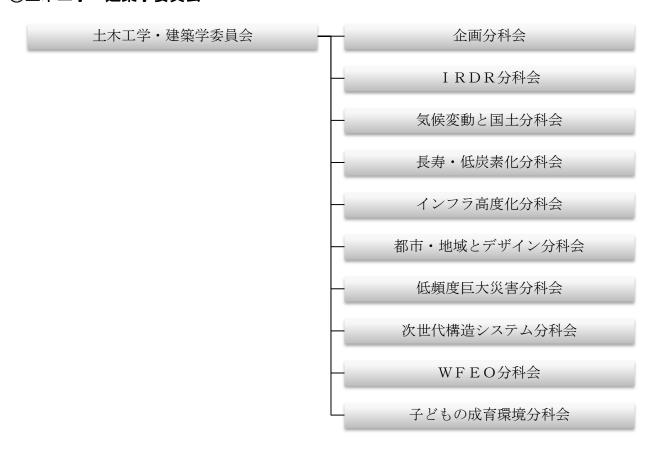
主な活動	審議内容							
	・社会基盤としての制御・パワー工学の在り方について検討。							
	・安全安心スマート社会の実現向けたパワー・制御システムのセキュリテ							
	マネージメントの方向性および実現可能性を検討。							
	意思の表出(※見込み含む)							
	開催シンポジウム等							
	平成 31 年 1 月 17 日の公開シンポジウム「電気エネルギーの未来を考える~							
	ブラックアウトの現象、影響と提言」(日本学術会議第3部 電気電子工学委							
	員会主催)について企画開催運営に協力。							
開催状況	平成30年7月20日、令和元年7月19日、令和2年2月19日							
今後の課題等	公開シンポジウムにおける意見交換等を踏まえ、パワー・制御システムのセ							
	キュリティマネージメントの方向性について検討を深めることができたが、							
	今後、セキュリティマネージメントの実施体制を議論していくことが課題と							
	なろう。							

電気電子工学委	員会 通信・	電子システ	ム分科会					
委員長	仙石正和	副委員長	森川博之	幹事	中野美由紀、佐古和			
					恵			
主な活動	審議内容							
	本分科会には	、小委員会	として「ICT 分野の鬼	速力・興味差	基軸の分析と創造小委			
	員会」(委員長	: 森川博之、	幹事:大山りか、成	末義哲)を置	置き、通信・電子シス			
	テム (ICT:情	「報通信技術)	分野の課題、将来の	方向性につ	いて、審議している。			
	ICT の進歩は	急激であると	同時に、様々な分野へ	へのその活用	目も拡大の一途をたど			
	っている。我だ	が国のこの分	野での学術面、産業	面などの貢南	状の勢いを一層増すた			
	めにどのよう	な人材育成が	ぶ必要かとの視点で審	議を進めてい	いる。			
	意思の表出(意思の表出(※見込み含む)						
	今期の審議を	·踏まえて、	来期の早い時期での	、提言、報	告の形の意思の表出			
	を目指してい	を目指している。						
	開催シンポジ	開催シンポジウム等						
開催状況	分科会:令和	12年2月20	日(木)、令和2年	9月7日(月)			
	小委員会:令	和2年2月	20 日 (木)、令和 2	年8月25日	日(火)、令和2年9			
	月7日(月)							
	小委員会拡大	幹事会:令	和2年5月7日(木)	、令和2年	5月29日(金)、令			
	和2年7月7	日 (火)、常	3和2年7月31日(金)、令和 2	年8月21日(金)			

今後の課題等

今期、平成31年に、学術会議講堂において、公開シンポジウム「That's interesting: ICT 研究はどこに向かうのか」を開催(約300名の参加)し、これを基に、その後の審議を経て来期早い時期の提言、報告の形の意思の表出を目指し議論を継続している。その結果を何らかの形で、公開シンポジウムなどに結び付け、ICT 研究の一層の発展を目指す。

29土木工学・建築学委員会



土木工学・建築学委員会								
委員長	米田雅子	副委員長	前川宏一	幹事	小林潔司、田辺新一			
主な活動	審議内容							
	「持続可能で	豊かな社会	」の実現を目標に、	、「安全・安・	心な社会」、「インフラ			
	健全化社会」、	「健康・文	化向上社会」、「環	境共生社会」	、「低炭素・循環型社			
	会」、「国際貢	献」を重点	テーマとして、学	際連携の推進	進も含め、11 の分科会			
	の活動を行っ	ている。令	和2年8月4日に	土木工学・発	津築学分野の会員と連			
	携会員が集ま	る全体会を	、対面会議と WEB	会議の混合だ	方式で開催し、相互理			
	解を深め、活	動を活発化	させた。全体会の	前後で分科会	会を集中開催した。			
	意思の表出(※見込み含	む)					
	開催シンポジ	ウム等						
	公開シンポシ	ジウムとして	C、令和元年 12 月	24 日に「4	令和元年台風第 19 号			
	に関する緊急報告」、令和3月18日に「低頻度巨大災害を考える」を開催							
	した。							
	新型コロナ対	対策のため、	毎年開催している	「構造工学	シンポジウム」と「環			
	境工学連合講	「演会」を中	中止した。					

開催状況	令和元年10月30日(メール審議)令和元年11月21日、令和2年1月16日
	(メール審議)、令和2年1月23日(メール審議)、令和2年3月5日、
	令和2年7月8日 (メール審議)、令和2年8月4日
今後の課題等	土木工学・建築学分野の扱う範囲は広いが、全体会を毎年開催することによ
	り、各分科会の活動成果を知るとともに、共通する課題について総合的に検
	討した。今期は委員会として免震・制振データ改ざん問題の提言を出すとと
	もに、激甚化する自然災害を検討し、防災減災学術連携委員会と連携し、シ
	ンポジウムを開催した。令和3年1月14日に東日本大震災十周年のシンポジ
	ウムを企画している。

土木工学・建築学委員会 企画分科会							
委員長	米田雅子	副委員長	前川宏一	幹事	小林潔司、田辺新		
主な活動	審議内容						
	本分科会は、	土木工学・	建築学の学術分野を	俯瞰しつつ、	学際連携の推進も		
	含め、土木工	学・建築学	委員会および関連す	る分科会、	小委員会、シンポジ		
	ウム等に関す	る諸活動を	円滑に推進すること	を目的として	ている。環境工学連		
	合小委員会を設置し、環境工学に関わる 21 学会との学際連携を進めている。						
	2020年8月4	目に土木工	学・建築学分野の会	員と連携会員	員が集まる全体会を		
	開催することに寄与し、分科会間の相互理解を進めた。						
	意思の表出(※見込み含	む)				
	HH III	1 3 States					
	開催シンポジ	, ,					
			3 回環境工学連合講演	真会を開催す	⁻ る予定であったが、		
	コロナ禍で中止となった。						
開催状況							
今後の課題等	学際連携と土	木工学・建	築学分野の分科会の	相互理解を対	進めること		

土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分科会								
委員長	望月常好	副委員長	道奥康治	幹事	戸田圭一、池内幸司			
主な活動	審議内容	審議内容						
	これまで審議	これまで審議を進めてきた気候変動と国土に係る多様なテーマの一つとし						
	て、高潮予測	て、高潮予測に関する検討状況について審議した。また、これまでの審議内						
	容をもとに、	令和元年東	日本台風等によ	る甚大な被	害発生を踏まえ、激甚化			

	する水災害に対応した適応策に関して特に低平地に焦点を当てて提言を発出することとし、その内容について審議を行った。さらに提言内容の具体化に向けた課題や今後の課題について審議を行った。 意思の表出(※見込み含む)
	提言「低平地等の水災害激甚化に対応した適応策推進上の重要課題」を令和 2年6月17日に発出した。
	開催シンポジウム等
開催状況	令和元年10月15日、令和2年1月14日、令和2年8月4日
今後の課題等	本提言と令和2年7月の国土交通省社会資本整備審議会答申の方向性は同一であり、適切に連携しつつ早期に提言内容の具体化を図る。また、今後、従来から進められている「氾濫を防ぐための対策」の加速に加え、ハード・ソフト両面の「氾濫を前提とした対策」の展開が急がれる。このため、未だ確立されていない「氾濫を前提とした対策」について、そのあり方や効果と限界、国土計画等との関係、各地域の実情を踏まえた課題とその解決策など、諸検討を急ぐ必要がある。

環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 長寿・低炭素化分科会							
委員長	田辺新一	副委員長	伊香賀俊治	幹事	下田吉之、		
	шил		伊賀貝俊伯		渡邊朗子		
主な活動	審議内容						
	我が国には長	寿化、人口	減少、世帯構成など	の急激な社会	会環境の変化が訪れ		
	る。このよう	な社会では	これまでの成長を仮	定した対策。	とは異なる脱炭素シ		
	ナリオが必要	になる。画	一的に住宅の性能を	向上させる方	だけではなく、住ま		
	い方や働き方	の変容を考	慮して家庭分野の脱	炭素に向けて	て検討を行った。長		
	寿·脱炭素社	会における	住まいと住まい方に	関して提言を	を発出した。		
	意思の表出 (※見込み含む)						
	2020年6月23日に提言が学術会議ホームページで公開された。						
	「長寿社会における脱炭素健康住宅への道筋」						
	http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t290-4.pdf						
	開催シンポジウム等						
	シンポジウム	を計画して	いたが、新型コロナ	ウイルス感染	染症のため、断念し		
	た。次期及び	関連する学	会で webinar などを	用い提言の	紹介を行う予定。		

開催状況	令和元年 11 月 22 日 (第 8 回)、令和 2 年 2 月 13 日 (第 9 回)、8 月 5 日 (第 10 回)分科会開催
今後の課題等	新型コロナウイルス感染症の影響

土木工学・建築学	土木工学・建築学委員会 インフラ高度化分科会								
委員長	小林潔司	副委員長	天野玲子	幹事	那須清吾•高橋良				
	717个条 円	人對却丁		和					
主な活動	審議内容								
	最新の先端技	術の成果を	取り入れたスマート	なインフラの	の整備、大規模修繕・				
	更新戦略は、	インフラシ	ステムの高度化を通	じて国土、	都市・地域の再生・				
	更新の先導役を果たすことにつながる。分科会では、インフラの新規整備、								
	大規模修繕・更新を通じたインフラシステムの高度化戦略を議論する。この								
	ようなインフラ高度化戦略には、アセットマネジメント技術の高度化、低炭								
	素社会・価値多様化社会に対応しうる新インフラ技術の実装、インフラマネ								
	ジメントの高度化のための制度基盤の発展などが含まれる。								
	意思の表出(※見込み含	tr)						
	審議内容に関	するシンポ	ジウム開催を企画し	た。					
	開催シンポジ	ウム等							
	令和2年3月	4日シンポ	ジウム「気候変動に	対応した防災	災・減災のありかた」				
	0								
	開催を予定し	たが新型コ	ロナ感染拡大にとも	ない中止					
開催状況	過去9回分科	会を開催し	(第24期3年目は	令和元年 11	月8日(第7回)、				
	令和2年3月	令和2年3月4日(第8回:新型コロナ感染のため中止)、令和2年8月5日							
	(第9回)、雰	長員各位によ	る話題提供を踏まえ	論点を整理	し、シンポジウムを				
	企画した。								
今後の課題等	第24期のと	りまとめと	第25期への申し送	り事項の整理	里				

土木工学・建築学委員会 都市・地域とデザイン分科会									
委員長	内藤廣	副委員長	浅見泰司	幹事	赤松佳珠子、山本佳世子				
主な活動	審議内容	審議内容							
	1.「都市・地域とデザイン」の基本的な考え方								
	2. 次世代の	ための「都市	市・地域のデザイン	/」構想	思				
	3. 制度設計や資源配分のあり方 以上に係る審議に関								
	すること								
	意思の表出(※見込み含	む)						

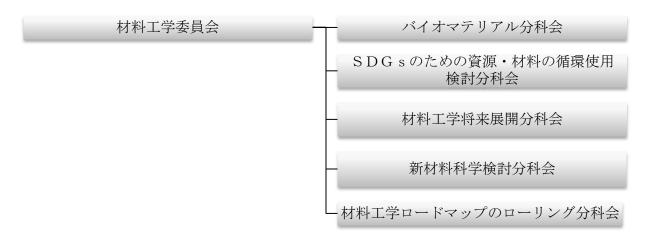
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	2019年10月8日幹事会*、11月18日分科会、12月23日情報領域*、
	2020年1月17日都市領域*、1月28日建築領域*、1月30日土木領域*、
	2月28日情報領域*、6月19日幹事会*、9月9日分科会
	*グループ毎の非公式開催
今後の課題等	「クロノデザイン」という視点で、建築・都市・土木・情報の分野毎にデザイン
	を捉え直し、近未来の新たなテーゼとして、書籍化して広く世の中に示す。
	2020年9月末刊行予定

土木工学・建築学委員会 次世代構造システム分科会										
委員長	前川宏一	前川宏一 副委員長 依田照彦 幹事 小野 潔·崩								
主な活動	審議内容									
	1) 階層的な構	靖 造システム	、(物質、材料、部材	構造、環境)	に関わる技術の横					
	型連結と情報	技術, 2)既存	構造システムの総合	診断を軸と	した技術・知見の集					
	成,3) 建築物	成,3) 建築物・インフラ施設の更新を背景に4)現行の技術認証の形態を調査								
	した。人口減	少下の社会	を支えるインフラ構	造技術の認	証システムと事業執					
	行形態につい	て、具体的	な提案を作成すると	ともに、公会	共事業執行にかかわ					
	る技術者の参	加を得て、	議論と情報の共有を	行った。						
	意思の表出(※見込み含	む)							
	議論の詰めを	図り、次期	において1年以内に	是言を取りる	まとめたい。					
	開催シンポジ	ウム等								
	なし									
開催状況	分科会を3回	開催(2019.	11. 5, 2020. 1. 9, 20	020.8.4) し	て、議論を進めた。					
	なお、各行政	機関へのヒ	アリングと幹事会を	数回にわたり	り開催した。					
今後の課題等	公共調達の仕	組みと技術	認証と資格制度の位	置関係を明る	権化し、構造システ					
	ムの性能照査	技術による	認証の在り方を、国	際標準にも	準拠した視点で提案					
	を行いたい。									

土木工学建築学委員会、総合工学委員会合同 WFEO 分科会							
委員長	塚原健一	副委員長	副委員長 為近恵美 幹事 山本佳				
主な活動	審議内容						

	1. WECC2015 の開催を受け、引き続き工学分野における我が国の国際的貢							
	献度を高めるため、学術会議の関連委員会や関連学協会と協力して、WFE							
	O(世界工学団体連盟)活動ならびに WFEO が連携する各種の国際的/地							
	域的活動、行事に積極的に関与、貢献すること							
	2.2009年より8年間日本が主導した災害リスクマネージメント技術常設委							
	員会が 2017年で8年間の任期終了となり、2018年以降の新たな活動の柱を							
	検討することに係る審議に関すること							
	意思の表出(※見込み含む)							
	なし							
	(2019 年 11 月 塚原委員長が日本学術会議代表派遣 WFEO 総会(メルボ							
	ルン) にて、SDGs (主に災害分野) 達成における日本の工学界の活動を報告)							
	http://www.wfeo.org/world-engineers-convention-2019-wec-2019/							
	http://www.wfeo.org/world-engineers-convention-2019-wec-2019/							
	http://www.wfeo.org/world-engineers-convention-2019-wec-2019/ 開催シンポジウム等							
	開催シンポジウム等							
	開催シンポジウム等 2020年3月 「世界工学の日記念シンポジウム」(日本工学会主催)後援							
開催状況	開催シンポジウム等 2020年3月 「世界工学の日記念シンポジウム」(日本工学会主催) 後援 (新型コロナウイルスのため、WFEO 主催 World Engineering Day Event							
開催状況	開催シンポジウム等 2020年3月 「世界工学の日記念シンポジウム」(日本工学会主催)後援 (新型コロナウイルスのため、WFEO 主催 World Engineering Day Event (パリ開催予定) とともに中止)							
開催状況	開催シンポジウム等 2020年3月 「世界工学の日記念シンポジウム」(日本工学会主催)後援 (新型コロナウイルスのため、WFEO 主催 World Engineering Day Event (パリ開催予定)とともに中止) 第24期・第1回(2018年3月9日):第24期における活動方針,委員構成							
開催状況	開催シンポジウム等 2020年3月 「世界工学の日記念シンポジウム」(日本工学会主催)後援 (新型コロナウイルスのため、WFEO 主催 World Engineering Day Event (パリ開催予定)とともに中止) 第24期・第1回(2018年3月9日):第24期における活動方針,委員構成 について							
開催状況	開催シンポジウム等 2020年3月 「世界工学の日記念シンポジウム」(日本工学会主催)後援 (新型コロナウイルスのため、WFEO 主催 World Engineering Day Event (パリ開催予定)とともに中止) 第24期・第1回(2018年3月9日):第24期における活動方針,委員構成 について 第24期・第2回(2019年2月5日):WFEO活動における当分科会及び日本							
開催状況	開催シンポジウム等 2020年3月 「世界工学の日記念シンポジウム」(日本工学会主催)後援 (新型コロナウイルスのため、WFEO 主催 World Engineering Day Event (パリ開催予定)とともに中止) 第24期・第1回(2018年3月9日):第24期における活動方針,委員構成 について 第24期・第2回(2019年2月5日):WFEO活動における当分科会及び日本 の工学界の活動方針について、WFEO理事選挙立候補について							
開催状況	開催シンポジウム等 2020年3月 「世界工学の日記念シンポジウム」(日本工学会主催)後援 (新型コロナウイルスのため、WFEO 主催 World Engineering Day Event (パリ開催予定)とともに中止) 第24期・第1回(2018年3月9日):第24期における活動方針,委員構成 について 第24期・第2回(2019年2月5日):WFEO活動における当分科会及び日本 の工学界の活動方針について、WFEO理事選挙立候補について 第24期・第3回(2020年年3月9日):2019年メルボルン総会総括,理事							

30材料工学委員会



材料工学委員会								
委員長	山口 周	副委員長	片岡一則	幹事	乾 晴行,筑本知子			
主な活動	審議内容							
	1. 日本の大	学における	材料工学の教育研究の	の現状と将え	来展望:学科・専攻,			
	ならびに	コースとし	て材料工学の教育カ	リキュラム	を提供している材料			
	工学分野	の教育研究	組織の現状と課題,	ならびに将え	来展望を探る.			
	2. 革新的材	料開発:社	会を変えるような高	いインパク	トの材料革新を実現			
	, -		とその研究開発のあ	り方について	て審議する.			
	意思の表出(※見込み含	む)					
	なし							
	開催シンポジ	ウム等						
	なし							
開催状況	委員会は計6	回開催. 7回	回目を令和2年3月1	16 日に予定	したが、新型コロナ			
	感染症蔓延に	つき中止と	した. 令和2年9月	中にメール	審議(意見交換)に			
	より, 今期の	総括(案)	作成を行う.					
今後の課題等	全国材料系関	係教室協議	会との協力のもとに	アンケート	調査を行う予定であ			
	ったが、本年	3月以降の	新型コロナウィルス	感染拡大に	より停滞している.			
	材料工学に関	わる大型プ	ロジェクトに関する	議論とともに	こ今期中には完結す			
	ることが困難	であり, 25	期への申し送り事項	とする.				

材料工学委員会 バイオマテリアル分科会								
委員長	片岡一則	副委員長		幹事	岸田晶夫、中野貴			
	丌 呵 ̄!则		- 响性犬		曲			
主な活動	審議内容							
	1. マスター	プラン 2020	提案について					
	2. 主催シンポジウム開催について							
	意思の表出 (※見込み含む)							
	マスタープラン 2020 提案 (バイオマテリアル国際先導研究拠点の構築) と重							
	点大型研究計	画への採択						
	開催シンポジ	ウム等						
	主催シンポジ	ウム「日本	学術会議シンポジウ	ム:バイオー	マテリアルー学術基			
	盤からのイノ	ベーション	-」(令和2年7月2	2日、日本	学術会議講堂)開催			
	で準備が完了	していたが	COVID-19 の影響で	中止				
開催状況	令和元年4月	15 日第 4 回	①、令和元年11月6	日第5回バ	イオマテリアル分科			
	会、日本学術会議、令和2年3月9日第6回バイオマテリアル分科会 COVID-							
	19 のため中止							
今後の課題等	主催公開シン	ポジウムの	開催、次回提言の発出	<u> </u>				

環境学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 SDGsのための資源・材料の循環使用検討分科会										
禾 月 巨	+++ +		I	り食源・材料の 幹事	1					
委員長 	中村崇	副委員長	所 千晴	野争	岡部徹、安達毅					
主な活動	審議内容									
	持続可能な社	:会達成のた	めの目標(Susta	inable Develo	pment Goals, SDGs)					
	に大きくかか	に大きくかかわる資源の将来性を天然資源と人工資源の両面から学術的に議								
	論を行った。	鉱物資源の	安定供給は、経済	斉発展と気候変	動に大きくかかわる					
	温暖化ガス((CO2, フロン)などの発生にた	大きな関りがあ	り、それらの関係の					
	定量性を議論	i し、資源・	材料工学の学術の	の進むべき方向	性を示した。					
	意思の表出(※見込み含	む)							
	下記に示す二	つのシンポ	ジウムの成果を	基に次期の学術	会議で、早々に提言					
	をまとめる予	·定。								
	開催シンポジ	ウム等								
	「SDGs 時代に	こおける資源	開発後の鉱山環	竟対策のあり方	」(平成30年7月30					
	日、162名)、									
	「SDGs のため	の資源・材料	料の循環使用に関	貝するシンポジ	ウム」(令和元年8月					
	5日、192名)									
開催状況	第1回(平成	30年2月	19日)、第2回(平成 30 年 7 月	30日)、第3回(平					
	成31年1月	15 日)・第	4回(令和2年8	月 20 日) Web :	会議					

今後の課題等 次期 25 期も同様の分科会を設置し、提言をまとめ、かつ委員の若返りを目指す。

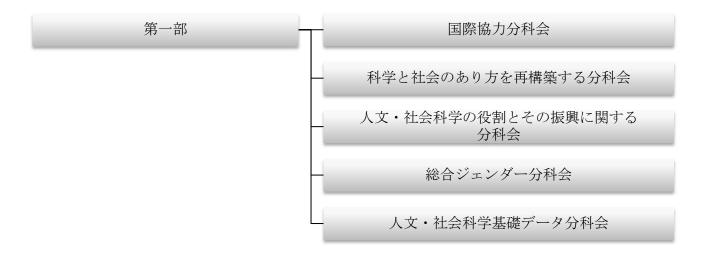
材料工学委員会	材料工学将	来展開分科	 会								
委員長	乾 晴行	副委員長	大貫惣明	幹事	森田一樹,	中野裕美					
主な活動	審議内容	審議内容									
	3. 前期発出	3. 前期発出の提言「材料工学から見たものづくり人材育成の課題と展望」									
	の総括と	の総括と発展的議論.									
	4. 材料工学の学部・大学院教育プログラムに関する検討(材料工学委員会										
	と共同).										
	意思の表出(※見込み含	t)								
	なし										
	開催シンポジ	ウム等									
	なし										
開催状況	委員会は計2	回開催.3回	回目を令和2年3月	16 日に子	定し,新型	コロナ感染					
	症蔓延につき	中止とした	が、令和2年9月	25 日に遠り	層で開催予算	官である.					
今後の課題等	前分科会が一	昨年度提出	した、「材料工学か	ら見たもの	づくり人材	育成の課題					
	と展望」の提	と展望」の提言書をもとに中・高校教育や、若手、女性教育も視野にいれた、									
	材料工学の強	みが出る人	材教育について、	さらに発展	させた議論	が必要であ					
	ると考えてい	る									

材料工学委員会	新材料工学	検討分科会						
委員長	山口 周	副委員長	細野秀雄	河村能人,岸本康 夫				
主な活動	審議内容							
	5. 新材料科	5. 新材料科学の学理:物質科学,材料科学,材料工学の学理について議論						
	するとと	もに,「新村	†料科学」の新たな定	養と展開に	ついて検討する.			
	6. 新材料科	学に関する	検討を広く行うため,	日本 MRS	と協力して,新しい			
	国際集会	の姿を模索	する.					
	意思の表出(※見込み含	t)					
	なし							
	開催シンポジ	ウム等						

	MRM Forum2019 の開催に協力し、表記審議内容について幅広く議論した。25期(2020年12月)に MRM Forum2020 を共催予定
開催状況	委員会は計2回開催.3回目を令和2年3月31日に予定したが,新型コロナ 感染症蔓延につき中止とした.
今後の課題等	「新材料科学」の展開について、多くの関連学協会を集合した俯瞰的議論を 進める必要がある.

材料工学委員会	材料工学ロー	・ドマップの	ローリ	ング分科会						
委員長	筑本 知子	副委員長	岸田	晶夫	幹事	松宮	徹、	大矢根綾子		
主な活動	審議内容									
	1. 夢ロード	マップ 2014	のデバ	イス材料分野	および	医療・ノ	・ イオ	材料分野に		
	ついての、「社	一会のための	材料工	学」を発展さ	せていく	くために	こ必要	でな施策の検		
	討									
	2.30年後の	材料工学分	野の研	究・学術のタ	ーゲット	トとなる	5キー	-ワードの抽		
	出									
	意思の表出(※見込み含	む)							
	なし									
	開催シンポジ	ウム等								
	なし	なし								
 	委員会は令和	 元年 11 月 1	15 日 <i>に</i>	94 期第 4 同2	を開催	第5回] を会	和2年3月		
NI JEWY	10日(火))u 11 /, 1	о д (С	21 /91/91 1 🖂	で 1/111年。	%10 E	1 6 11	1H 2 0)1		
	, (, ,	新型コロナル	咸染症	蔓延につき中」	ゖとした		12年	59月(調整		
	中) にに遠隔	. ,		×/= - C -		-0 1 4 11	,	- \1 (MaTE		
	今期議論を進	7 177 1 1 - 0		<u></u> 料分野および	 医療・ノ	 ヾイ オホ	大料 分	野のロード		
	マップのロー			, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				•		
	え、さらに発	展させた議	論が必	要であると考	えている					

③部が直接統括する分野別委員会合同分科会



第一部 国際協力分科会							
委員長	町村敬志	副委員長	西條辰義	幹事	栗田禎子・齋藤安 彦		
主な活動	審議内容						
	· AASSREC	総会(令和	元年9月ベトナム・	ハノイ)に1	代表派遣を行い、引		
	き続き事務局	と連絡を取	りながら活動に貢献	した。成果を	をもとに公開シンポ		
	ジウムを企画	した。					
	・IFSSO 総会	会(令和元年	10月トルコ)に参	加を予定して	ていたが、現地の治		
	安情勢悪化のため、派遣を中止した。						
	意思の表出(※見込み含む)						
	なし 開催シンポジウム等						
	・令和元年3	月8日に公	開シンポジウム「公	共空間から	考えるアジア―多様		
	性・創発性・	持続可能性	一」を予定していた	が、新型コロ	コナウィルスに対応		
	するため、開催延期となった。						
開催状況	令和元年 12 月 25 日、令和 2 年 9 月 11 日						
今後の課題等	人文・社会科	学領域の国	際交流拡大について、	<u> 統</u> 合された	た ISC への貢献を含		
	め、引き続き	様々な機会	をとらえ情報を収集	し、検討を込	進めたい。		

第一部 科学と社会のあり方を再構築する分科会						
委員長	杉田敦	副委員長	島薗進	幹事	兵藤友博・藤垣裕 子	
主な活動	審議内容	審議内容				

第6回委員会で、流通経済大学教授・尾内隆之氏より「「低線量被ばく」問 題に関する日本学術会議の発信に関する私見」と題して報告があった。これ は東日本大震災・原発事故以来、日本学術会議から発信された一連の意思の 表出についてのレビューであり、とりわけ臨床医学委員会放射線防御・リス クマネジメント分科会の報告(2017年9月)につき、その分析の前提や審議 方法について問題点が指摘された。これを受けて議論を行った。 また、危機対応科学情報発信委員会と連携して、社会に求められる科学情 報の発信に向けて審議を進め、新型コロナウィルス感染症の蔓延状況の中で その可能性を模索しようとしたが、同委員会の活動が、第二部所属の「専門 家」や幹事会の否定的対応によって頓挫したため、所期の目的を達せなかっ た。 意思の表出(※見込み含む) なし 開催シンポジウム等 なし 開催状況 2019年10月9日 第6回委員会 今後の課題等 上記の通り、日本学術会議にとって、コロナ危機は、科学と社会のあり方の 再構築を模索する機会であったが、成功しなかった。この反省をふまえて、 次期においてさらなる対応を模索されたい。

第一部 人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会							
委員長	橋本伸也	副委員長	溝端佐登史	幹事	木部暢子・本田由 紀		
主な活動	審議内容						
	今年度は、科	学技術基本	法改正に焦点を合わ	せて、とりる	わけ法改正上の重要		
	論点であった	「人文科学	のみに係るものを除	く」規定の関	削除およびイノベー		
	ションに関連	する諸規定	の取り込みに関連し	て数度にわれ	たって議論を積み重		
	ねてきた。前者については学術会議発足時まで立ち返って経緯を確認したう						
	えで資料集を作成し、分科会等で報告するとともに第一部 Newsletter 第 24						
	期第6号に掲	載した。					
	意思の表出(※見込み含	t)				
	分科会として意思の発出は行わなかったが、分科会の成果も踏まえて令利						
	年1月28日	に「科学技	術基本法改正に関す	る日本学術:	会議幹事会声明」が		
	発出された。						

	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和元年11月27日第8回、令和2年3月23日第9回分科会開催。
今後の課題等	次期科学技術・イノベーション基本計画策定への対応が求められている。

第一部 絲	念合ジェンダータ	} 科会						
委員長	永瀬伸子	副委員長	和泉ちえ	幹事	窪田幸子、藤原聖子			
主な活	審議内容							
動	人文社会科学系	系学協会男女:	共同参画推進連絡会	(Gender Equ	ality Association for			
	Humanities ar	nd Social Sci	ences – GEAHSS) &	: 共同して実施	色した第1回「人文社			
	会科学系研究者	か 男女共同	参画実態調査」報告書	詩が完成(202	20年1月)、これに基			
	づきシンポジウ	カムで提言。						
	https://824c8b	<u>1c-571f-457f</u>	-a288-					
	600b039832e3	.filesusr.com	<u>/ugd/5a0fef_e1e4861</u>	2dc2d478c97	<u>/c71f9a336fed98.pdf</u>			
	意思の表出(%	《見込み含む》)					
	分科会の審議の	つ記録として	人文社会科学系研究者	か男女共同参	参画の課題を提出。科			
	学者委員会男女	女共同参画委	員会の提言の一部とし	て意志表出の)見込み。			
	開催シンポジウム等							
	公開シンポジウム「どうするジェンダー平等 人文社会科学系学会の未来」(於日本							
	学術会議講堂)2020年2月18日							
	https://824c8b	<u>1c-571f-457f</u>	<u>-a288-</u>					
	600b039832e3.filesusr.com/ugd/5a0fef 4fd18d49018d4f89a54c9537b8b6196a.pdf							
開催状	12月17日、1	月 24 日、2 月	月 18 日、3 月 20 日分	科会開催				
況								
今後の	『学術の動向』	において本	分科会 24 期の成果や	課題をとりま	とめる。			
課題等								

第一部 人文・社会科学基礎データ分科会							
委員長	本田由紀	副委員長	佐藤嘉倫	幹事	藤原聖子、若尾政希		
主な活動	審議内容						
	人文・社会科学に関する基礎データの収集体制、収集すべきデータについて、						
	参考人として大学改革支援・学位授与機構からの説明を受けるとともに他国						
	の事例などに	ついて検討	し、次期以降の	の体制案	を作成して第一部の夏季部会		

	において了承を得た。
	意思の表出(※見込み含む)
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	2019年10月16日、2019年12月12日、2020年2月6日、2020年3月2日、
	2020 年 4 月 22 日
今後の課題等	今期に作成した体制案・データ案をふまえ、次期においては本分科会のメン
	バーを拡充するとともに、具体的なデータ収集と公開を開始する必要がある。

- 生命科学における公的研究資金のあり方検討分科会

第二部

生命科学ジェンダー・ダイバーシティー分科会

大規模感染症予防・制圧体制検討分科会

第二部 生命科	第二部 生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会						
委員長	平井みどり	副委員長	小松浩子	幹事	熊谷日登美		
主な活動	審議内容						
	生命科学は様	々な分野を	包含しており、学術	コミュニテ	ィの状況も様々であ		
	る。その現状	を把握し、	研究活動を活性化す	るためのジェ	ェンダー、あるいは		
	ダイバーシテ	ィに関する	問題を討議し、今後の	の対応策を表	考える。		
	意思の表出(※見込み含	tr)				
	今期に意思の	表出の予定	はない(科学者委員会	会男女共同	参画分科会の提言表		
	出への分担・協力を行う)						
	開催シンポジウム等						
	公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティに関						
	する課題と今後の展望」令和2年8月10日 Web 開催						
開催状況	分科会開催:	令和元年 10	月16日、令和2年	2月24日、	令和2年8月10日		
	(リモート開	催)					
今後の課題等	ジェンダー・	ダイバーシ	ティ問題解決への具	体的な対応第	策の提案。今後のシ		
	ンポジウムの	あり方(大	規模感染症流行など	、集合ができ	きない場合の開催方		
	法)。						

第二部 大規模感染症予防・制圧体制検討分科会							
委員長	秋葉澄伯	副委員長	平井みどり	幹事	糠塚康江		
	你来位旧				徳田英幸		
主な活動	審議内容						
	大規模感染	大規模感染症予防・制圧(流行の予防、大規模感染症流行への即応を含む)					
	には、最悪の事態を含めて事前に想定される事態について十分な検討を行い、						
	対応するための体制を作っておく必要がある。						
	米国では、国民を感染症の脅威から守る行政組織として 1946 年に設立さ						
	れ、その後改	れ、その後改組されて現在に至っている米国 CDC (Centers for Disease					
	Control and	Prevention)が、国民の健康・	福祉に脅威	となる感染症流行に		

際して、国内外を問わず現地で調査を行い、対策立案・実施、助言などを行っている。

本分科会では、米国の先行例を参考としつつ、感染症の大規模流行を予防し、流行に即応して大規模流行を引き起す感染症を制圧するために、必要な体制の整備等についての現実的な提言に向けた検討を行う。

意思の表出(※見込み含む)

提言「感染症の予防と制御を目指した常置組織の創設について」が 2020 年 7月3日に公表された。

その後、第三部情報学委員会ユビキタス状況認識社会基盤分科会と共同で、 提言案「感染症対策に向けた ICT 基盤の強化とデジタル変革の推進」を作成 した。

開催シンポジウム等

令和2年7月20日に記者会見

令和2年7月25日に科学技術振興機構研究開発戦略センター (JST/CRDS) が開催した「ポストコロナ新興感染症を見据えた研究開発戦略ワークショップ分科会2:公衆衛生学、疫学、医療経済学、保健医療政策学など、保健・医療と社会・情報科学の連携・融合研究」で提言の内容を紹介

令和 2 年 7 月 10 に AASSA (the Association of Academies and Societies of Sciences in Asia) が開催した COVID-19 に関する Webinar で提言の内容を紹介した。

開催状況

第一回令和2年4月9日

第二回令和2年5月11日

第三回令和2年5月26日

第四回令和2年6月9日

第五回令和2年11月15日

第六回令和2年6月19日

第七回令和2年7月1日

今後の課題等

感染症への対策が社会・経済に大きな影響を与えうるような感染症にかんする様々な問題点を検討すること

「科学技術の光と影を生活者との対話から 明らかにする」分科会

第三部

理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会

第三部 「科学技	第三部 「科学技術の光と影を生活者との対話から明らかにする」分科会				
委員長	徳田英幸	副委員長	土井美和子	幹事	高橋桂子・米田雅 子
主な活動	審議内容				
	第三部夏季	部会、学術	会議九州・沖縄地区	会議、九州ス	大学との共同開催と
	いう形で、公	開シンポジワ	ウム「健康で長生き-	・未来社会を	開くヘルステック・
	イノベーショ	ンー」を企同	画協力し、 令和2年	8月6日に	Web 会議方式にて
	開催した。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	・第 24 期第三部「科学技術の光と影を生活者との対話から明らかにする」分				
	科会活動記録				
	開催シンポジウム等				
	・令和2年8月6日公開シンポジウム「健康で長生き-未来社会を開くヘル				
	ステック・イノベーションー」				
開催状況	· 令和 2 年 8 月 6 日				
今後の課題等	・今後も「科	・学技術の光	と影」の視点で公開	シンポジウュ	ムを開催予定

第三部 理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会					
委員長	加藤 昌子	副委員長	森下 信	幹事	野尻 美保子
安貝及	加滕 目丁	則安貝及	林工工百	叶 丁	浅見 真理
主な活動	審議内容				
	・科学者委員会男女共同委員会と連携をとりつつも理工学の立場から、独自				
	の活動を行うと観点で、理工学の各分野の状況を調査した。分科会の会議に				
	加え、委員間でのメールによる情報共有や意見交換を集中的に行いながら、				
	ジェンダー・ダイバーシティーに関する国内および世界の取り組みや調査報				
	告の収集と分析を行い、「報告」としてまとめた(下記)。本報告の内容は、				
	上記男女共同参画委員会で提出中の提言(案)「社会と学術における男女共				
	同参画の実現	見を目指して	(仮)―2030年に向け	トた課題―」(こも織り込まれてい

	る。			
	意思の表出(※見込み含む)			
	報告「理工学分野におけるジェンダーバランスの現状と課題」(令和2年6			
	月5日発出)			
	開催シンポジウム等			
開催状況	24 期 第 3 回 2019 年 11 月 22 日			
	第 4 回 2020 年 1 月 20 日			
今後の課題(次	報告の内容を基に引き続き調査分析を進めるとともに、シンポジウムを開催			
期への申し送	して多方面の人々と広く意見交換しながら、広報と実効性の向上に努める。			
り)				

第三部 理工系	第三部 理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会				
委員長	山口 周	副委員長	菱田 公一	幹事	田近英一,安達淳
主な活動	審議内容				
	「周回遅れ」	となってい	る我が国の学術情報	限環境の再構	築と学協会の機能強
	化を図るため	,現状解析	,過去に発出された	提言の総括	,将来展望について
	調査し, 今後	の 10 年が学	術情報の大変革期で	であるという	認識のもとに,現状
	の組織の再構	成等による	学術情報環境の再構	葬築を目指す	戦略について提言を
	まとめた.				
	意思の表出(※見込み含	む)		
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	委員会は計6回開催,そのうち5回は対面で密度高く分科会を開催し、外部				
	識者20名から情報提供を受けた.6回目を令和2年6月4日にオンラインで				
	開催して提言原案を了承したが、その間提言案作成担当の正副委員長と幹事				
	で提言原案に関するオンライン打合せを行った.				
今後の課題等	今回の提言は、学術情報環境の大規模な再編成に関する基本構想をまとめた				
	ものであり、その具体化するための方策について関連政府機関や組織と連携				
	して具体案を作成する必要がある. また学協会の現状が多くの深刻な課題を				
	抱えているこ	とが明らか	になったため、学協	3会のあり方	,特に社会に対する

公益性や持続可能性,機能強化のための方策についても検討を進める必要がある.これらの課題は日本学術会議全体の課題でもあり,全体として議論を進める必要もあるが,これと並行して理学工学系に固有の問題として分科会を継続して審議する必要がある.

(7)地区会議

北海道地区会議
東北地区会議
関東地区会議
中部地区会議
近畿地区会議
中国・四国地区会議
九州・沖縄地区会議

東北地区会議	代表幹事 厨川 常元				
主な活動	審議内容				
	●令和元年度運営協議会(令和2年2月19日開催)				
	令和元年度の事業報告及び令和2年度の事業計画について審議し、				
	決定した。また、公開学術講演会の企画について議論を行い、テー				
	マを決定した。				
	●令和2年度運営協議会(令和2年5月20日開催)※Web会議				
	「新型コロナウイルス感染症」の状況を踏まえ、年次計画にある公				
	開学術講演会の開催日・開催方法等について、再度議論を行った。開				
	催日は当初通り 9月 26日に開催し、開催方式については web 開催に				
	変更することとなった。				
	開催シンポジウム等				
	・公開学術講演会「超高齢社会における看取りを考える」(令和元年9				
	月 15 日)				
	・東北地区会議ニュース(No.34)の発行(令和 2 年 3 月)				
	・公開学術講演会「人生 100 年時代の雇用問題」(令和 2 年 9 月 26 日)				
開催状況	令和元年9月15日 科学者との懇談会及び公開学術講演会				
	令和 2 年 2 月 19 日 令和元年度東北地区会議運営協議会				
	令和 2 年 5 月 20 日 令和 2 年度東北地区会議運営協議会 (Web 会議)				
	令和 2 年 9 月 26 日 公開学術講演会 (Web 講演会)				

今後の課題等	公開学術講演会等、地区会議の活動を一般市民にも広く広報し、学術
	会議の活動についてさらに周知するようにしたい。
	また地方学術講演会の開催も検討する予定。

関東地区会議		代表幹事	遠藤薫		
主な活動	審議内容				
	東京地区については、学術会議の多くのイベントが東京を中心に開催				
	されていることもあり、例年、	とくに審議	は行っていない。		
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	なし				
今後の課題等	東京地区会議の位置づけについ	て、改めて	検討する必要がある。		

中部地区会議		代表幹事	戸田山和久	
主な活動	審議内容			
	静岡大学における中部地区会議	の審議内容	は以下のとおり。令和2年	
	春の中部地区会議および学術講	演会は金沢	大学で開催。「中部地区会議	
	ニュース」の執筆依頼に輪番制	を導入。会員	員・連携会員の改選を控え、	
	中部地区からの会員・連携会員	の推薦を増	加させるため、各県の有力	
	大学学長への働きかけ等を行う	こととした。	0	
	金沢大学において開催予定だっ	った中部地口	区会議はメール審議となっ	
	た。主な審議内容は次のとおり	。金沢大学	で開催予定であった学術講	
	演会について、学術講演会に関しては、令和3年秋に延期。令和2年 秋の中部地区会議および学術講演会は岐阜大学にて開催(令和2年11			
	月 20 日)。会員任期終了にとも	ない、代表	幹事を戸田山和久会員(名	
	古屋大学)から、池田素子会員	(名古屋大学	生) へ交代。中部地区会議ニ	
	ュースは今回は発行せず、岐阜大学での地区会議及び学術講演会開催			
	後から再度発行。			
	開催シンポジウム等			
	学術講演会(令和元年11月29	日 於:静[岡大学)『地域に根ざした学	
	術研究と地域貢献への展望』講	演者:三成	美保(日本学術会議)戸部	
	健・小山眞人・原正和(静岡大	学)		
	令和2年6月9日に金沢大学で	開催予定で	あった学術講演会は新型コ	
	ロナウイルスの影響により、令	和3年に延	期することとした。	

開催状況	令和元年 11 月 29 日 (於:静岡大学)	
	令和2年5月25日~6月12日(メール審議)	
今後の課題等	中部地区会議は科学者懇談会との連携が強力なため、活動のレベルは	
	いことを自負しているが、会員・連携会員が極端に少ない県がいく	
	つかあり、バランスの取れた活動の維持に苦労している。今回は、会	
	員・連携会員の推薦数を増やすとりくみを行い、一定の成果はあげた	
	と思われるが、今後も継続していく必要がある。	

近畿地区会議		代表幹事	伊藤公雄			
主な活動	審議内容					
	昨年の台風による学術講演会の	延期および	にともない3月8日に予定			
	していた学術講演会について、新型コロナウイルス感染の広がりによ					
	り中止の判断を行った。今後の	り中止の判断を行った。今後の近畿地区の活動の方向性について協議				
	を行なった。また、次年度の学	術講演会の	企画について議論 を行い、			
	基本的な方向性についての合意	をえた。				
	開催シンポジウム等					
	昨年 10 月 12 日に予定されていた学術講演会は台風の直撃が予想され					
	ることから延期することになった。また、本年3月に延期して開催を					
	予定していた学術講演会も、新型コロナウイルス感染の広がりを前に					
	中止した。9月22日に、昨年の学術講演会の基本部分を継承しつ					
	つ、新たな企画を加える形で「未来の語り口:学術からの貢献」を開					
	催予定である。					
開催状況	2月14日15時より京都産業大	:学むすびわ	ざ館会議室にて、近畿地区			
	運営協議会と学術文化懇談会の	合同会議を	開催した。			
今後の課題等	10月12日の近畿地区学術講	演会をオン	ラインの形で公開・開催す			
	る予定である。					

中国・四国地区会	会議	代表幹事	神谷研二		
主な活動	審議内容				
	・中国・四国地区会議の主な活動である公開学術講演会の開催にあた				
	って、その趣旨である「学術の成果の国民への還元」に鑑み、参加する				
	国民の関心を集め、かつ地域の特色を活かしたテーマについて運営協				
	議会において審議した。				
	・地区ニュース及び地区会議の動向(「学術の動向」)での情報発信の				
	ため、掲載するトピック等について運営協議会において審議した。				
	開催シンポジウム等				

	・公開学術講演会「SDGs(持続可能な開発目標)の実現に向けた地域
	研究とイノベーション研究」(令和元年 11 月 16 日、山口市)を開催。
	・令和元年3月に中国・四国地区ニュース(No.51)を発行した。
開催状況	運営協議会:令和元年11月16日、令和2年3月※メール
今後の課題等	今期 3 回開催した公開学術講演会では、いずれも地域の活性化や特
	色をテーマとし、多くの一般市民の参加を得た。今後は、新型コロナ
	ウィルス感染症の感染防止のため、新しい形での公開学術講演会の開
	催を検討し、引き続き「学術の成果の国民への還元」が可能となるよ
	う、適切な方法で開催していく。

(8) 若手アカデミー

若手アカデミー会議
若手による学術の未来検討分科会
若手科学者ネットワーク分科会
イノベーションに向けた社会連携分科会
国際分科会
GYA総会国内組織分科会

若手アカデミー会議										
委員長	岸村 顕広	副委員長	新福 洋子	幹事	岩崎 渉、	髙瀨	堅			
主な活動	審議内容	審議内容								
	第24期最終年	Fは、これま	での審議内容をま	とめる活動	に注力した。	。具体的	内に			
	は、シチズン	サイエンス	の審議のまとめと	して提言案	「シチズン	サイエン	ノス			
	を推進する社	会システム	の構築を目指して」	を提出した	こ。また、「ナ	地方にお	おけ			
	る若手科学者	を中心とし	た学術活動の活性	:化」事業、	および、気	筑波会請	条や			
	WSF2019 等の	国際会議で	の議論をもとに、	学術の動向	」(2020年	4月号は	およ			
	び8月号) に	特集記事を	企画・掲載した。・	その他、文和	斗省、外務行	省、内閣	閣府			
	などの行政機関との意見交換を行い、文科省の審議会・委員会や CSTI の会合に参加し、積極的な発言を行った。また、2022 年に日本に招致する Global Young Academy 年次総会兼学会に向けた準備と内容に関する議論を開始し、関係する内容の公開シンポジウムを開催した。また、以下の国際会議に参加した(国際代表派遣含む): 令和元年 10 月筑波会議(筑波)、第 10 回 EU-Japan Science Policy Forum (京都)、STS フォーラム 2019 (京都)、11 月 World Science									
	Forum 2019 (ブダペスト)、2020 年 2 月国連 5th International Day of Women and Girls in Science (ニューヨーク)、4-5 月 G サイエンス学術会議 2020、6 月 GYA									
	年次総会(オンライン)									
	意思の表出(※見込み含む)									
	提言案「シチズンサイエンスを推進する社会システムの構築を目指して」									
読中)開催シンポジウム等										
								【シンポジウム】公開 WEB シンポジウム「シチズンサイエンス・当		
	が拓く次世代	の科学:新	しい世界線の開拓」	(2020年7	月 25 日、	オンラィ	イン			

開催、手話通訳・要約筆記も導入)
【ワークショップ】公開ワークショップ「大学の国際化による地方活性化促
進:地方拠点としての大学の在り方を考える」(2020年1月23日、場所:別
府ビーコンプラザ、大分県別府市で開催、オンライン同時配信も実施)
令和元年11月19日(第8回、メール審議)、令和2年1月24日(第9回、
別府)、令和2年9月19日(第10回、オンライン開催(予定))
25 期に向けての議論の活発化。メンバー間の意思疎通の円滑化。

若手アカデミー 運営分科会								
委員長	岸村 顕広	副委員長	新福	洋子	幹事	岩崎	歩、髙瀨	堅吉
	若手アカデミーの	の全体会議の)起案、	若手アカテ	ごミー主催	星のシンオ	ポジウム・	ワークショ
主な活動	ップ等の企画立案、シチズンサイエンス提言に関する議論、GYA 年次総会兼学会の日							
工/5/10男/	本開催についての議論、新型コロナウイルス感染症の影響への対応に関する議論、25							
	期の立ち上げに向けた準備の議論、など。							
今後の課題	若手アカデミーの組織のさらなる機能強化を意図し、次期の立ち上げ時の申し送りを							
等	まとめる。							
開催状況	令和元年12月26日(第5回)、令和2年3月9日(第6回)、令和2年5月1日(第							
阿催化化	7回)、令和2年	7月3日(3	第8回)	、令和2年	8月3日	(第9回)	

若手アカデミー 若手による学術の未来検討分科会						
委員長	川口慎介	副委員長	平田佐智子	幹事	埴淵知哉・中村征 樹	
主な活動	審議内容					
	科学者のあり	方,特にラ	イフワークバランス	の実現につい	ハて検討し、中でも	
	学術界の内部	事業である	学会活動が業務量負	担となってい	いる可能性について	
	議論を進める	0				
	意思の表出(※見込み含む)					
	なし。ただし、本分科会での議論を中心とした学術論文『日本における学術					
	研究団体(学会)の現状』埴淵知哉・川口慎介を E-journal GEO 誌 15 巻に					
	出版した。 開催シンポジウム等					
	なし					
開催状況	令和2年9月19日(予定)					
今後の課題等	大学生・大学	院生の置か	れた状況への迅速な	対応を可能に	こする体制の構築	

若手アカデミー 若手科学者ネットワーク分科会								
委員長	岩崎 渉	副委員長	井頭麻子	幹事	酒折文武・前川知樹			
主な活動	審議内容							
	・若手科学者	シンポジウ	ムの開催に向けて準備	備を行な	つた(しかしながら新			
	型コロナウ	イルス感染	症のため開催を断念で	すること	となった)。			
	・若手科学者	・若手科学者ネットワークの発展と活用について議論した。						
	意思の表出(意思の表出(※見込み含む)						
	なし	なし						
	開催シンポジウム等							
	なし(新型コロナウイルス感染症のため延期)							
開催状況	第4回(令和	元年 12 月 1	2日)※メール審議					
	第5回(令和	2年1月2	4 日)					
今後の課題等	若手科学者ネ	ットワーク	の発展と活用、若手	科学者シ	ンポジウムの開催			

若手アカデミー	イノベーショ	ンに向けた	社会連携分科会						
委員長	髙山弘太郎	副委員長	髙瀨堅吉	幹事	上村想太郎·谷内江 望				
主な活動	審議内容	審議内容							
	・提言準備 W	/G を設置し	,提言「若手研究	足者が推済	進するイノベーションに向				
	けた社会連携	(仮)」につ	いて検討を行って	た					
	・公開ワーク	ショップ 「若	F手による地域共和	創の実践	とプラットフォーム (仮)」				
	の立案・企画	の立案・企画を行った(令和2年9月開催予定であったが、新型コロナウィ							
	ルス感染症対応のため令和3年3月 [オンライン開催] に延期)								
	意思の表出(※見込み含む)								
	なし								
	開催シンポジウム等								
	なし (新型コロナウィルス感染症対応のため次年度に延期)								
開催状況	令和元年 12	月 16 日(第	5回) ※メール						
	令和2年9月16日 (第6回) ※オンライン								
今後の課題等	公開ワーク	ショップ 「若	F手による地域共和	創の実践	とプラットフォーム (仮)」				
	の開催に向け	た準備を進	める						

- ・提言準備 WG で検討を行った提言案について引き続き議論を行う
- ・若手研究者とシニア研究者をつなぐ仕組みについて検討する

若手アカデミー	国際分科会						
委員長	新福洋子	副委員長	西嶋一欽	幹事	中西和嘉、安田仁		
	外山田1十一1				奈		
主な活動	審議内容						
	Global Young	g Academy Ø	動向・連携、GYA 総	会兼学会の打	招致、国際化に伴う		
	大学のインフ	ラ整備、海	外におけるデータ取行	得に関する阿	章壁(CITES 会議)、		
	World Science	e Forum 20	19、スウェーデン若	手アカデミー	ーとの交流、学術の		
	動向対談						
	意思の表出(※見込み含む)						
	開催シンポジウム等						
	令和2年1月23日「大学の国際化による地方活性化促進:地域拠点としての						
	大学の在り方を考える」						
開催状況	令和1年7月	和 1 年 7 月 26 日、8 月 23 日、令和 2 年 1 月 8 日、24 日、6 月 11 日					
	(その他、適	宜、メール	での情報共有・意見を	交換)			
今後の課題等	COVID-19 によ	くる国際連携	活動、国際会議開催	の障壁			

若手アカデミー	若手アカデミー GYA 総会国内組織分科会							
委員長	新福洋子	副委員長	岸村顕広	幹事	岩崎渉、安田仁奈			
主な活動	審議内容	審議内容						
	GYA 総会兼力	大会の開催テ	ーマ、コンセプト、	日程、コン	テンツ、ファンドレ			
	イジング、他	の国際会議を	や日本学術会議若手	アカデミー	イベントとの連携に			
	ついて、GYA	、との連携の	下、開催の企画運営	を担う。				
	意思の表出(※見込み含む)							
	開催シンポジウム等							
 開催状況	会和9年5日	1日 7日	3日、8月3日					
阿伊かん	171112 十 0 万	1 日,1 万、	у н / о /1 о н					

今後の	課題等
-----	-----

COVID-19 の影響でイベント延期の可能性

3. インパクト・レポート

(1) 提言「研究と産業に不可欠な中性子の供給と研究用原子炉の在り方」

インパクト・レポート

1 提言等内容

- (1) 我が国の科学技術を支える量子ビームである放射光及び中性子を提供する施設の充実は重要である。特に、JMTR の廃炉による我が国における照射炉の消滅および JRR-3 や KUR などのビーム炉の高経年化は大きな懸念材料であり、早急な改善が必要である。
- (2) 現状で最も重要なことは、照射炉の建設を早急に進めることである。出力は JMTR と 同程度 (40~50MWth) とし、照射した試料を扱う実験施設を備える必要がある。研 究炉の建設には長期間かかることから、この間のユーザーへの支援を行う必要がある。
- (3) 中性子ビームの利用を促進するために、JRR-3 の早期の再稼働を進め、冷中性子源の 増強と中性子導管のスーパーミラー化等の高度化を図ることが必要である。また、 長期的な観点から時間を要する JRR-3 の次期炉の検討を早急に進めるべきである。
- (4) 研究炉の利用では産業利用および原子力発電所の安全性の研究開発の占める割合が 大きくなると予想される。研究炉の建設や運営に対する費用について、関係省庁で 適切な負担の在り方を検討する必要がある。また、将来の原子力発電所の廃炉や使 用済燃料の処理処分等長期にわたる事業を支えるための人材育成が必要であり、研 究炉は人材育成に大きく貢献できる。
- 提言等の年月日
 平成30年8月16日
- 3 フォローアップ なし
- 4 社会に対するインパクト
- (1) 政策への反映

有

(国立研究開発法人日本原子力研究開発機構(JAEA)で JMTR 後継炉検討委員会が設置され、検討が始まっている中、様々な視点からの情報提供を行った。)

- (2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応
- (a) 学協会
 - ・なし
- (b) 研究教育機関
 - ・なし
- (c) 市民
 - ・なし

5 メディア

- ・一般社団法人日本原子力産業協会の原子力産業新聞(WEB/2018年8月17日)記事で 「学術会議が研究炉の在り方で提言」として本提言の内容が紹介された。
 - ・朝日新聞デジタル(WEB/2018年12月26日)記事「廃止決定の研究炉、180億円が消える・・・無駄に維持費も」において、日本学術会議の分科会が提言をとりまとめたことについて言及された。
- 6 考察と自己点検 (a-c から一つ選択し、説明する)
- (b) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

提言で強調した照射炉 JMTR の廃止に伴う後継炉の検討が国立研究開発法人日本原子力研究開発機構で始まった。

インパクト・レポート作成責任者 総合工学委員会原子力安全に関する分科会委員長 矢川 元基

(2)提言「ハッブルの法則の改名を推奨するIAU決議への対応」

インパクト・レポート

1 提言等内容

- ・ 従来、宇宙膨張に関する法則については「ハッブルの法則」と呼ばれてきた。国際天文学連合では、宇宙膨張に関しての先行研究の重要度に鑑み、「ハッブルールメートルの法則」と改名を推奨することが第30回の国際天文学連合総会で提案され、2018年10月の電子投票で決議された。
- ・ この決議に伴い、国内の学校教育現場などで混乱が起きないよう、社会の各分野 で以下の対応が取られることを希望したものである。すなわち、
- (1) 学校教育で用いられる教科書における記述変更は直近の改訂時に対応する。それまでは教科書に対する特別の補充資料は作らず、現場での解説で対応する。
- (2) 各種試験で、宇宙膨張の法則の名称そのものを問うて、『ハッブルの法則』か『ハッブルールメートルの法則』かによって解答の正否が分かれるような問題は出さない。
- (3) 学校教育現場に限らずしばらくの期間は、『ハッブルの法則』と『ハッブルールメートルの法則』のどちらが使われていても問題とはしない。
- (4) 一般書やマスコミ等の記述、講演会などで用いる名称は担当者次第であるが、IAU 決議の趣旨を踏まえて『ハッブルールメートルの法則』を用いることが望ましい。
- 2 提言等の発出年月日2018年12月26日
- 3 フォローアップ(提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動) 分科会などのメンバーが所属する研究機関、特に自然科学研究機構国立天文台では、天文情報センター広報室および普及室を中心として、本提言の趣旨の説明やマスコミ各社の問い合わせに対応した。また、分科会委員を中心として、各種学会誌や新聞、オンラインメディアなどに寄稿し、周知を図った。
- 4 社会に対するインパクト
- (1) 政策への反映特に該当なし
- (2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応
- (a) 学協会
 - ・日本天文学会理事会および評議員会においては、分科会委員長が中心となり、本提言

の趣旨を説明し、議論を行った。

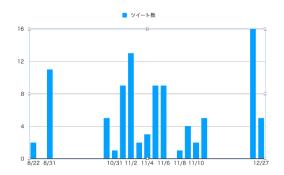
- ・日本天文学会の機関誌:天文月報において、提言に至った背景と事実関係の 調査結果などを含む解説記事を掲載した(天文月報 2020年1月号掲載予定)。
- ・公益社団法人日本天文学会の学会事業である「インターネット天文学辞典」の対応す る項目名を変更し、内容を一新した。

(b) 研究教育機関

- ・自然科学研究機構国立天文台が編集している 2020 年の理科年表トピックスとして取り上げ、解説記事を掲載した。
- ・自然科学研究機構国立天文台では、天文情報センター広報室を中心に、本件に関して メディアからの問い合わせなどへ対応した。

(c) 市民

- ・自然科学研究機構国立天文台の質問電話受付には、改名に関する一般市民からの 問い合わせがあり、背景などについて丁寧に説明した。
- ・国内の SNS 上でハッブルの法則の改名についての情報が流れたのは国際天文学連合が 提案した総会直後の 8 月末、投票結果が出た 11 月初め、そして学術会議の提言が発 出された 12 月末の 3 回あったが、結果的には学術会議の提言直後が最も多かった。 (ツイッターでの検索結果:下図参照)



5 メディア

- ・オンラインメディア掲載件数 87件
- ・主要紙 9件
- 1 朝日新聞 11月1日 夕刊 "「ハッブルの法則」改め「ハッブル・ルメートルの法則」に 国際学会2年早 く発表の学者名追加"
- 2 朝日新聞(大阪) 11月1日 夕刊

"「ハッブルの法則」→「ハッブル・ルメートルの法則」 別の論文発表の学者名追加"

- 3 読売新聞 11月5日 夕刊 "ハッブルの法則改称へ 宇宙膨張論提唱 ルメートル追加"
- 4 読売新聞(大阪) 11月5日 "「ハッブルの法則」名称変更へ 宇宙膨張ルメートルも提唱"
- 5 毎日新聞 11月8日 朝刊 "宇宙膨張「ハッブルの法則」を 「ハッブル・ルメートルの法則」に 国際天文学連合が推奨"
- 6 毎日新聞(大阪) 11 月 8 日 朝刊 "宇宙膨張「ハッブルの法則」を 「ハッブル・ルメートルの法則」に 国際天文学連合が推奨"
- 7日本経済新聞 12月28日 朝刊
 - "宇宙の法則名 変更提言 「ハッブル・ルメートル」に 学術会議"
- 8 毎日新聞 1月4日 夕刊
 - "学術会議「ハッブルだけじゃない」 法則名に「ルメートル」入れて"
- 9 毎日新聞(大阪) 1月4日 夕刊
 - "名を加えて「ハッブル・ルメートル」 宇宙膨張の法則 学術会議が変更提言"
- 6 意思の表出内容おいて、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

特に該当なし。

- 7 考察と自己点検 (a-c から一つ選択し、説明する)
- (a) 予想以上のインパクトがあった

予想以上のメディアでの露出により、代表的な法則名の裏に隠れた研究者があぶりだされたことで、多くの一般市民の方々があらためて宇宙膨張および、その解明に至る研究のプロセスに興味を持ってもらったと考える。

インパクト・レポート作成責任者 IAU分科会委員長 渡部潤一 天文学・宇宙物理学分科会委員長 林正彦

(3)(提言)「免震・制振のデータ改ざん問題と信頼回復への対策」

インパクト・レポート

提言等内容

第三者の試験施設を用いた抜き取り検査の実現:

免震支承やダンパーについて、製造会社による全製品の自社検査に加えて、建設中の建物に 組み込まれる前の製品の一部を、発注者、設計事務所、建設会社などの指示により任意に抜 き取り、第三者による客観的な試験を行い、製品の性能を担保することが必要である。

大型製品の実大試験施設の導入:

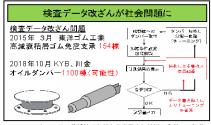
米国、中国、台湾、イタリアには本格的な試験施設があり、実物大の製品の動的試験を行う ことが可能である。日本には実大動的試験設備がなく、免震構造や制振構造の安全確保に必 要な、免震支承やダンパーの実大試験施設の整備が急がれる。免震・制振技術において、現 状では国際競争力の低下も懸念されるため、研究や技術開発の面からも整備が望まれる。

供用の大型試験設備を持つ検査機関の設置:

大型試験施設を保有する第三者検査機関の設置が必要である。この設立は、官民連携で国の 支援に加えて民間から広く資金を募ることを考える。製造会社とは独立に、発注者、設計事 務所、建設会社などからの要望により、設置される前の免震装置やダンパーそのものを任意 に抜き取って持ち込み、試験を行うことができる。

提言「免震・制振のデータ改ざん問題と信頼回復への対策」概要 日本学術会議 土木工学·建築学委員会

平成31年4月



自社検査が問題/簡易モデル試験にも限界が

-製品の性能確認を各製造会社独自の 方法による自社検査に任せてきたこと が改ざんを生んだ。検査機器内の係数 の書換えや原点調整の不正を、立会 い検査者や外部技術者は見抜けない。 実物大の動的載荷試験機がないため 各社の簡易モデル試験(低速度、縮小 モデル、単純な加力法、限られた繰り 返しなど)で性能を推測してきた。正確

さにも限界があり、改善が望ましい。



米国、中国、伊、台湾の検査は?

・米国、中国、台湾、イタリアには実大動的試験施設 があり、発注者、設計事務所、建設会社などの指示。 に対応して、第三者により製品の抜き取り試験を行うことができる。



· 左* 2回は豊梓技術科学大学斉藤大樹教授* 資料か、転載 右* 図は大林組山中昌之氏* 資料か、転載

写真は東京工業大学竹内徹教授 資料か、転載

本図は東京工業大学笠井和彦特任教授* 資料か、転載 米国、台湾、伊国は試験方法に関する学協会規準がある 中国は学協会規準に加え、一部に法規制がある

①第三者試験施設を用いた抜き取り検査

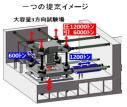
- ・製造者と利害関係のない第三者の試験施設を用いた試験。 ・製造会社による自社検査に加えて、建設中の建物に組み込まれる前の製品の一部を、発注者、設計事務所、建設会社などの指示により任意に抜き取り、第三者による零観的な試験を行い、製品の世能を担保する。 ・免震・制振装置は海外からも輸入されており、輸入品について国内の第三
- 者による抜き取り試験の実施体制を整備することも必要。

②大型製品の実大試験施設の導入

- 免震支承やダンパーの性能検証をするためには実大試験が必要。
- ・ 光声、スポ ドン・ハーの は他 砂塊 にとり ぶっぱい には 美人 品級 から 安 。
 ・ 米国、中国、台湾、イタリアでは 実大動的試験を行うことができる。
 ・ 日本には 実大動的試験 設備がなく、その 整備が 急がれる。
 ・ 日本は 免疫・ 制振技術で 世界をリードしてきたが、 現状のままでは 国際競争
- 力の低下も懸念されるため、研究や技術開発の面からも整備が望まれる。

③共用* 大型試験設備を持つ検査機関* 設置

共同利用を前提とした大型試 験施設を保有する第三者検査 機関の設置が必要。設立にあたっては、官民連携で、国の支 接に加えて、民間から成 ·墓りたい、検査機関が設置さ れると、製造会社とは独立に、 発注者、設計事務所、建設会 社などからの要望により、実際 に組み込む前の免震装置やダ ンバーそのものを任意に抜き *本図は東京工業大学笠井和彦特任教授* 資料か、転載



4本の鉛直ジャッキの力や 変形を独立に制御し、試 験体頂部の加力剛板に回 転を与えることができる。 大型試験の結果をもとに 向上も可能。橋梁の支承 にとって重要な回転変形 、の追随性も検証できる。

振動台試験機と載荷試験 機に分かれる。振動台の 代表はEーディフェンス。 本提案は3軸動的載荷試 験機-鉛直荷重を載荷し た状態で、水平2方向に動 的に加力できる。

2019年1月15日にシンボジウム「免震・制振データ改ざんの背景と信頼回復への道筋」で、この提言案へのアンケート調査を行った。回答数は275で、回答者の83%が第三者機関の必要性に、約90%が大型試験施設の必要性に貧同し、本提言への期待が明らかになった。

2 提言等の発出年月日

平成31年4月16日

- 3 フォローアップ (提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動)
- ・土木工学・建築学委員会主催、日本建築学会・土木学会・日本地震工学会・防災学術連携体・日本建築構造技術者協会・日本免震構造協会の後援により公開シンポジウムを開催(平成31年1月15日)「免震・制振データ改ざんの背景と信頼回復への道筋」。提言執筆の纏めの最終段階で、関係者との議論を深めることができた。関係者全員に、この提言内容の重要性および必要性を理解していただくことができ、アンケート調査も行った。総合討論では本提言に賛同する意見が多く出され、アンケート回答者(275名)の約83%が第三者機関の必要性に、約90%が大型試験施設の必要性に賛同し、本提言の実現が広く期待されていることが明らかになった。
- ・土木工学・建築学委員会主催、日本建築学会・土木学会の共催により第 65 回構造工学シンポジウムを開催(平成 31 年 4 月 20 日・21 日)提言「免震・制振データ改ざんの背景と信頼回復への道筋」を、最も関係の深い研究者・技術者に紹介し、質疑を行い、本提言の趣旨の理解を深めることができた。

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

< 有 >

2019 年 4 月 16 日の公表日に合わせて、同日午後に本提言を国土交通省技術審議官に 手交した。その後、国土交通省の広報会議室において記者会見を行い、多くのメディアにと りあげられた。この段階では、すぐに政策に反映されることはなかったが、続けて国土交通 省住宅局と実現の可能性について打ち合わせを続けている。

- (2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応
- (a) 学協会
 - ・土木学会、日本建築学会、日本地震工学会などの学会では、研究、論文などを通して、免 震・制振に関わる製品について、実大・実荷重・実変形、実速度の実験の必要性が主張さ れるようになっている。
- (b) 研究教育機関
 - ・東京工業大学を中心に、東京大学、京都大学、名古屋工業大学、福岡大学などと連携した 研究組織が作られ、中国・台湾などに設置されている大型試験機を用いた実験研究が進め られている。
- (c) 市民
 - ・日経新聞・朝日新聞・NHK などのメディアを通して、一般市民にも大型試験機の必要性を 広めることができた。

5 メディア

- ① 1月15日に開催した日本学術会議公開シンポジウムの紹介
- ・日経アーキテクチャ電子版(平成31年1月24日)
- ② 4 月 16 日の提言発表と国土交通省への手交の報道
- NHK 全国放送「おはよう日本」のニュース(平成 31 年 4 月 17 日早朝)
- 日本経済新聞(平成 31 年 4 月 16日夕刊)
- •朝日新聞(平成 31 年 4 月 16日夕刊)

- · 読売新聞 (平成 31 年 4 月 16日夕刊)
- · 秋田魁新聞 (平成 31 年 4 月 16 日夕刊)
- · 時事通信 (平成 31 年 4 月 16 日電子版)
- ③ 学術的な記事
- ・JST 客観日本(平成 31 年 5 月 10 日) 「耐震建築安全確保に新たな大型試験施設を 日本学術会議が提言」
- 6 意思の表出内容おいて、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。 過去の日本学術会議からの意志の表出に、関係するものはありません。
- 7 考察と自己点検 (a-c から一つ選択し、説明する)
 - (a) 予想以上のインパクトがあった

この提言の中で提案している本格的な試験機の設置と公的試験機関の設立には、数十億円の 予算が必要であるが、本提言をきっかけに日本免震構造協会が中心となり、将来の利用者にあ たる大手建設会社、建築設計事務所、免震装置や制振装置の製造会社などとともに「世界を リードする確かな免震・制振技術発展のための大型動的試験装置設置に関する日本免震構造協 会の宣言」を纏め、この宣言を 2020 年 6 月に発表する段階になっている。

> インパクト・レポート作成責任者 土木工学・建築学委員会委員長 米田 雅子